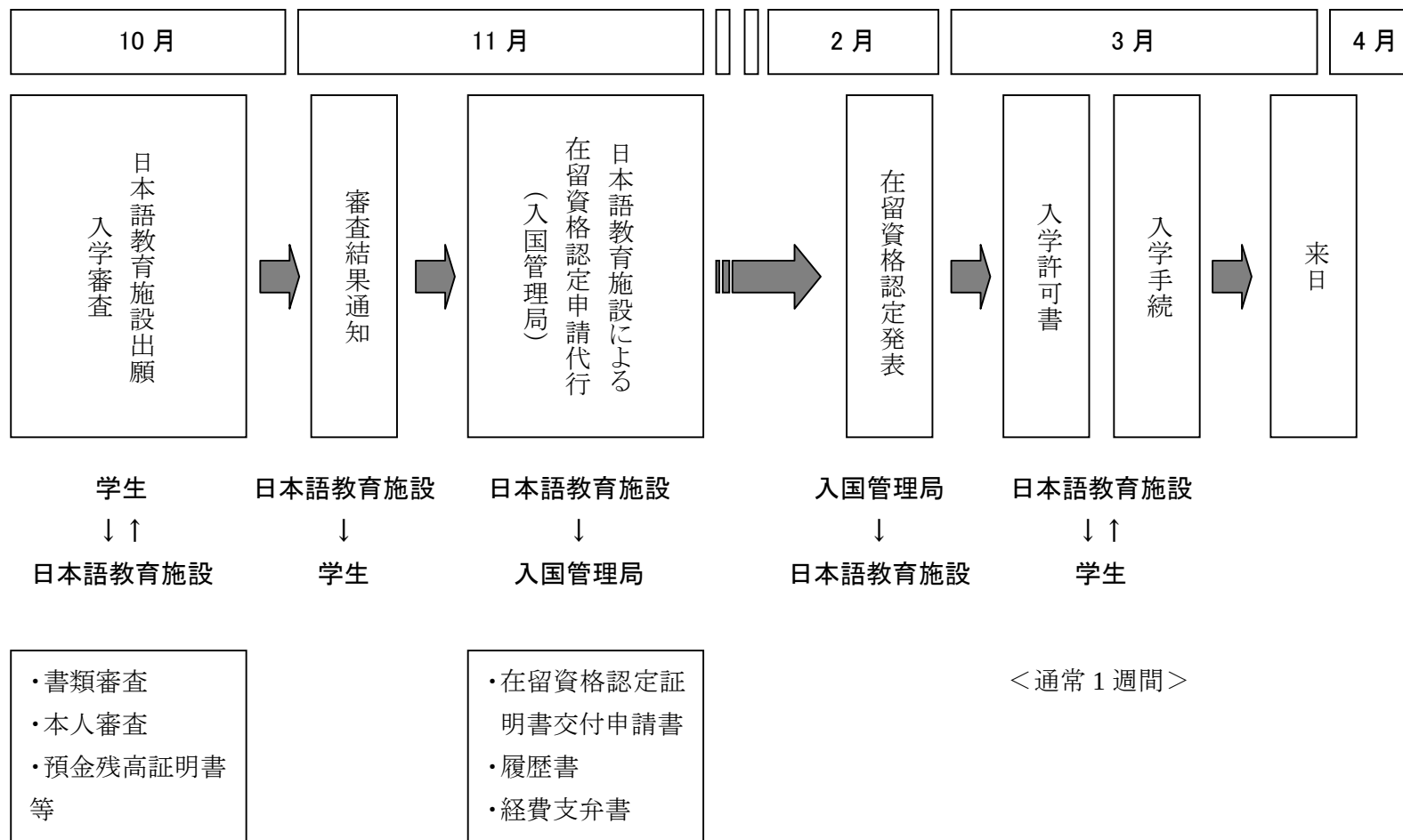


APPENDIX E

事業実施スケジュール

• 日本語教育施設手続きのフロー



▲ 選考料の納付

▲ 入学金・授業料その他費用の納付

教育機関入学金・各種納入金納付時期

各教育機関別の入学金、授業料等各種納入金の納入時期は以下の通りである。大学・大学院については手続き方法が多様化している為、アンケート・インタビューを実施した学校を中心に5つのグループに大別した。

・日本語教育施設

入学金・授業料一括納入:3月上旬～中旬

・大学・大学院

(1) 国公立グループ

入学金・授業料一括納入:3月上旬～3月最終週

(2) 私立一段階募集・一括・早期納入グループ

(国公立の発表を待たずに締切が設けられている学校)

入学金・授業料一括納入:2月上旬～3月上旬

(3) 私立一段階募集・分割・後期納入グループ

(国公立の発表後に締切が設けられている学校)

入学金:12月上旬～2月上旬

授業料その他:3月上旬

(4) 私立二段階募集・分割・早期納入グループ

(国公立の発表を待たずに締切が設けられている学校)

<一次募集>

入学金:12月上旬～2月上旬

授業料その他:3月上旬

<二次募集>

入学金:2月上旬～3月上旬

授業料その他:3月上旬

(5) 私立二段階募集・分割・後期納入グループ

(国公立の発表後に締切が設けられている学校)

<一次募集>

入学金:12月上旬～12月下旬

授業料その他:3月下旬

<二次募集>

入学金:2月下旬～3月上旬

授業料その他:3月下旬

私学の場合、入試の方法が多様化している為、一概には言えないが、(5)に属する学校が比較的が多い。(財)日本語教育振興協会へのヒアリングからも、当初から私立大学を志望している学生は、上記(4)(5)の一次募集を利用し、年内に進学先を決定する学生が相当数居る事が分かった。

APPENDIX F

アンケート・インタビュー結果

奨学金に関するアンケート

※このアンケートは私費留学生を対象としております。国費留学生の方はお答え頂く必要はございません。

※すべての質問について、あてはまるもの1つのみ選んで解答用紙(マークシート)にご記入ください。

I 奨学金についてお尋ねいたします。

1 私費留学生のために以下の条件で、返済の義務がある奨学金があった場合、あなたは利用を希望しますか。

- ・奨学金は入学金等、大学に入学する時にかかる費用のために貸付けられる。
- ・留学生は日本に滞在中に奨学金を返済する
- ・利息は年利0%~1%とする

- 1.利用したいと思わない 2.利用したいと思う

2 この奨学金制度による貸付金額はいくらくらいが良いと思いますか。

- 1.[100,000円未満] 2.[100,001~200,000円] 3.[200,001~400,000円]
4.[400,001~600,000円] 5.[600,001~800,000円] 6.[800,001~1,000,000円]
7.[1,000,001~1,200,000円] 8.[1,200,001~1,400,000円] 9.[1,400,001~1,600,000円]
10.[1,600,001~1,800,000円] 11.[1,800,001円以上]

3 2で答えた金額の奨学金をあなたが借りたとして、どれくらいの期間で返済が出来ると思いますか。

- 1.[1年未満] 2.[1年] 3.[2年] 4.[3年] 5.[4年] 6.[5年] 7.[6年] 8.[6年以上]

4 2で答えた金額の奨学金をあなたが借りたとして、毎月いくらず返済が出来ると思いますか。

- 1.[5,000円未満] 2.[5,001~10,000円] 3.[10,001~15,000円]
4.[15,001~20,000円] 5.[20,001~25,000円] 6.[25,001~30,000円]
7.[30,001~35,000円] 8.[35,001~40,000円] 9.[40,001円以上]

5 4で答えた金額をどのようにして返済することが出来ると思いますか。

- 1.親類からの仕送り 2.アルバイト 3.他の奨学金 4.保証人等からの援助 5.配偶者(夫又は妻)の収入 6.その他

6 この奨学金をあなたが借りたとして、来日してからどれくらい過ぎてから返済を始める事が出来ると思いますか。

- 1.[来日直後から返済が可能] 2.[2ヶ月未満] 3.[2ヶ月以上6ヶ月未満] 4.[6ヶ月以上]

7 保証人が必要であったら、誰にお願いできますか。

- 1.保証人を付ける事は出来ない 2.日本語学校 3.大学、短期大学、専門学校
4.大学・学校の指導教員 5.日本人の知人 6.日本人以外の知人
7.国際交流団体 8.在日大使館の職員等 9.日本に住んでいる親類
10.母国に住んでいる親類 11.その他

II あなたの生活についてお尋ねします。

a. あなた自身の事・現在通っている学校などについてお尋ねします。

8	あなたの性別はどちらですか。	1.男	2.女			
9	あなたの年齢はいくつですか。	1.[20歳未満]	2.[20～24歳]	3.[25～29歳]	4.[30～34歳]	5.[35歳以上]
10	どこに住んでいますか。	1.東京都	2.東京都以外の関東	3.大阪府	4.大阪府以外の近畿	
		5.東海	6.中国・四国	7.九州	8.北陸・信越	
		9.東北・北海道				
11	日本語学校卒業後の希望進学課程は何ですか。	1.大学院博士課程	2.大学院修士課程	3.学部正規課程		
		4.学部レベルの研究生・聴講生		5.大学の留学生別科		
		6.その他				
12	あなたの希望する専攻は何ですか。	1.社会科学(政治・経済・社会学など)	2.人文科学(文学、言語学、歴史学など)			
		3.工学	4.医歯薬学	5.教員養成等	6.農学	7.芸術
		8.家政	9.理学			
		10.その他				
13	日本語学校の授業はどのくらい出席していますか。	1.[ほぼ100%]	2.[80%～90%]	3.[60%～80%]	4.[60%未満]	
14	日本に来て何年たちますか。	1.[1年未満]	2.[1～2年未満]	3.[2～3年未満]	4.[3～4年未満]	
		5.[4～5年未満]	6.[5年以上]			
15	今後どのくらい日本に滞在する予定ですか。	1.[1年未満]	2.[1～2年未満]	3.[2～3年未満]	4.[3～4年未満]	
		5.[4～5年未満]	6.[5年以上]	7.[未定]		
16	あなたの日本語のレベルはどのくらいですか。	1.上級(日本語能力試験1級レベル)	2.中級(2級レベル)			
		3.初級①(3級レベル)	4.初級②(4級レベル)	5.初級以下		
17	11で答えた課程を卒業後は何をする予定ですか。	1.母国で就職	2.母国で進学	3.日本で就職	4.日本で進学	
		5.母国・日本以外で就職	6.母国・日本以外で進学	7.その他		
18	将来の希望業種は何ですか。	1.国際機関	2.公務員	3.製造業	4.商社・流通	5.研究職・教職
		6.金融	7.情報処理・ソフトウェア	8.通信・情報・マスコミ	9.サービス	
		10.医師・弁護士・会計士等	11.その他			
19	あなたの親・世帯主の職種は何ですか。	1.国際機関	2.公務員・教職員	3.農業・漁業・林業	4.自営業	
		5.会社員(一般)	6.会社員(管理職)	7.会社役員	8.研究職	
		9.医師・弁護士・会計士等	10.無職	11.その他		
20	あなたの国籍をお答え下さい。	国・地域別コードを参照(7ページ)				

日本語教育施設生アンケート

b. あなたの生活の収入・支出についてお尋ねします。

21	1か月の平均的な収入の合計はどれくらいですか。	1.[0～100,000円]	2.[100,001～120,000円]	3.[120,001～130,000円]
		4.[130,001～140,000円]	5.[140,001～150,000円]	6.[150,001～160,000円]
		7.[160,001～170,000円]	8.[170,001～180,000円]	9.[180,001円以上]
22	そのうち、親族からの仕送りはどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～30,000円]	3.[30,001～50,000円]
		4.[50,001～60,000円]	5.[60,001～70,000円]	6.[70,001～80,000円]
		7.[80,001～90,000円]	8.[90,001～100,000円]	9.[100,001～120,000円]
23	そのうち、アルバイト収入はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～30,000円]	3.[30,001～50,000円]
		4.[50,001～60,000円]	5.[60,001～70,000円]	6.[70,001～80,000円]
		7.[80,001～90,000円]	8.[90,001～100,000円]	9.[100,001～120,000円]
24	そのうち、奨学金はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～30,000円]	3.[30,001～50,000円]
		4.[50,001～60,000円]	5.[60,001～70,000円]	6.[70,001～80,000円]
		7.[80,001～90,000円]	8.[90,001～100,000円]	9.[100,001～120,000円]
25	そのうち、保証人などからの援助はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～20,000円]	3.[20,001～30,000円]
		4.[30,001～40,000円]	5.[40,001～50,000円]	6.[50,001～60,000円]
		7.[60,001～70,000円]	8.[70,001～80,000円]	9.[80,001～100,000円]
26	そのうち、配偶者(夫又は妻)の収入はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～60,000円]	3.[60,001～80,000円]
		4.[80,001～90,000円]	5.[90,001～100,000円]	6.[100,001～110,000円]
		7.[110,001～120,000円]	8.[120,001～130,000円]	9.[130,001～150,000円]
27	そのうち、その他の収入はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～10,000円]	3.[10,001～20,000円]
		4.[20,001～30,000円]	5.[30,001～40,000円]	6.[40,001～50,000円]
		7.[50,001～60,000円]	8.[60,001～70,000円]	9.[70,001～90,000円]
28	1か月の平均的な支出の合計はどれくらいですか。	1.[0～120,000円]	2.[120,001～130,000円]	3.[130,001～140,000円]
		4.[140,001～150,000円]	5.[150,001～160,000円]	6.[160,001～170,000円]
		7.[170,001～180,000円]	8.[180,001～190,000円]	9.[190,001円以上]
29	そのうち、授業料はどれくらいですか。 [1年間の授業料を12で割って下さい。 入学金は入れないで下さい。]	1.[無し]	2.[1～10,000円]	3.[10,001～30,000円]
		4.[30,001～40,000円]	5.[40,001～50,000円]	6.[50,001～60,000円]
		7.[60,001～70,000円]	8.[70,001～80,000円]	9.[80,001～100,000円]
30	そのうち、教科書、実習教材、文具、サークル活動費など学校生活にかかる費用はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～11,000円]	3.[11,001～13,000円]
		4.[13,001～14,000円]	5.[14,001～15,000円]	6.[15,001～16,000円]
		7.[16,001～17,000円]	8.[17,001～18,000円]	9.[18,001～20,000円]
		10.[20,001円以上]		

日本語教育施設生アンケート

31	そのうち、定期代などの通学費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～4,000円]	3.[4,001～6,000円]
		4.[6,001～7,000円]	5.[7,001～8,000円]	6.[8,001～9,000円]
		7.[9,001～10,000円]	8.[10,001～11,000円]	9.[11,001～13,000円]
		10.[13,001円以上]		
32	そのうち、食費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～26,000円]	3.[26,001～30,000円]
		4.[30,001～32,000円]	5.[32,001～34,000円]	6.[34,001～36,000円]
		7.[36,001～38,000円]	8.[38,001～40,000円]	9.[40,001～44,000円]
		10.[44,001円以上]		
33	そのうち、家賃、寮費などの住居費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～22,000円]	3.[22,001～26,000円]
		3.[26,001～30,000円]	5.[30,001～34,000円]	6.[34,001～38,000円]
		7.[38,001～42,000円]	8.[42,001～46,000円]	9.[46,001～50,000円]
		10.[50,001円以上]		
34	そのうち、電気、ガス、水道料金などの光熱費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～4,000円]	3.[4,001～5,000円]
		4.[5,001～6,000円]	5.[6,001～7,000円]	6.[7,001～8,000円]
		7.[8,001～9,000円]	8.[9,001～10,000円]	9.[10,001～11,000円]
		10.[11,001円以上]		
35	そのうち、保険、医療費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～1,000円]	3.[1,000～2,000円]
		4.[2,001～3,000円]	6.[3,001～4,000円]	6.[4,001～5,000円]
		7.[5,001～6,000円]	8.[6,001～7,000円]	9.[7,001～8,000円]
		10.[8,001円以上]		
36	そのうち、趣味・娯楽費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～4,000円]	3.[4,001～6,000円]
		4.[6,001～7,000円]	5.[7,001～8,000円]	6.[8,001～9,000円]
		7.[9,001～10,000円]	8.[10,001～11,000円]	9.[11,001～13,000円]
		10.[13,001円以上]		
37	そのうち、その他の日常的な経費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～9,000円]	3.[9,001～11,000円]
		4.[11,001～12,000円]	5.[12,001～13,000円]	6.[13,001～14,000円]
		7.[14,001～15,000円]	8.[15,001～16,000円]	9.[16,001～18,000円]
		10.[18,001円以上]		
38	収入から支出を引いて残る額(貯金など)はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～9,000円]	3.[9,001～11,000円]
		4.[11,001～12,000円]	5.[12,001～13,000円]	6.[13,001～14,000円]
		7.[14,001～15,000円]	8.[15,001～16,000円]	9.[16,001～18,000円]
		10.[18,001円以上]		

c. あなたが来日したときにかかった費用についてお尋ねします。

39	渡航費	1.[0～50,000円]	2.[50,001～75,000円]	3.[75,001～100,000円]
		4.[100,001～125,000円]	5.[125,001～150,000円]	6.[150,001～175,000円]
		7.[175,001～200,000円]	8.[200,001～250,000円]	9.[250,001円以上]
40	家賃以外の住居費(敷金・礼金)	1.[0～50,000円]	2.[50,001～75,000円]	3.[75,001～100,000円]
		4.[100,001～125,000円]	5.[125,001～150,000円]	6.[150,001～200,000円]
		7.[200,001～300,000円]	8.[300,001～400,000円]	9.[400,001円以上]

日本語教育施設生アンケート

41 家財道具等	1.[0～50,000円]	2.[50,001～75,000円]	3.[75,001～100,000円]
	4.[100,001～125,000円]	5.[125,001～150,000円]	6.[150,001～175,000円]
	7.[175,001～200,000円]	8.[200,001～250,000円]	9.[250,001円以上]
42 入学金 [授業料は入れないで下さい]	1.[0～150,000円]	2.[150,001～200,000円]	3.[200,001～250,000円]
	4.[250,001～300,000円]	5.[300,001～350,000円]	6.[350,001円以上]
43 その他初年度納入金 [授業料は入れないで下さい]	1.[0～150,000円]	2.[150,001～200,000円]	3.[200,001～250,000円]
	4.[250,001～300,000円]	5.[300,001円以上]	
44 39～41の費用を含めて、あなたが来日したときいくらぐらいの資金を持っていたか。	1.[0～200,000円]	2.[200,001～400,000円]	3.[400,001～600,000円]
	4.[600,001～800,000円]	5.[800,001～1,000,000円]	6.[1,000,001～1,500,000円]
	7.[1,500,001～2,000,000円]	8.[2,000,001円以上]	
45 現金・預金を合わせた現在の所持金はいくらですか。	1.[0～50,000円]	2.[50,001～100,000円]	3.[100,001～150,000円]
	4.[150,001～200,000円]	5.[200,001～250,000円]	6.[250,001～300,000円]
	7.[300,001～350,000円]	8.[350,001～400,000円]	9.[400,001円以上]

d. 奨学金についてお尋ねします。

46 どの奨学金をもらっていますか。	1.もらっていない 2. 母国政府・地方自治体からの奨学金 3.母国の民間団体・基金からの奨学金 4.日本政府からの奨学金(国費外国人留学生) 5.学習奨励金 6.日本の地方自治体からの奨学金 7.日本の民間団体からの奨学金 8.学校からの奨学金 9.その他の奨学金
--------------------	--

e. アルバイトについてお尋ねします。

47 どのようなアルバイトをしていますか。	1.やっていない 2.講師・教師 3.一般事務 4.飲食業 5.清掃 6.配達・運送 7.営業販売 8.工場 9.コンピューター・プログラマー 10.その他
48 1週間のアルバイト時間数はどれくらいですか。 (学校のある期間・平均)	1.[やっていない] 2.[5時間未満] 3.[5以上10時間未満] 4.[10以上15時間未満] 5.[15以上20時間未満] 6.[20以上25時間未満] 7.[25時間以上]
49 長期休暇中の1週間のアルバイト時間数はどれくらいですか。 (夏休み等・平均)	1.[やっていない] 2.[5時間未満] 3.[5以上10時間未満] 4.[10以上15時間未満] 5.[15以上20時間未満] 6.[20以上25時間未満] 7.[25時間以上]
50 来日してどれくらいしてからアルバイトを始めましたか。	1.[やったことがない] 2.[1ヶ月未満] 3.[1ヶ月以上3ヶ月未満] 4.[3ヶ月以上6ヶ月未満] 5.[6ヶ月以上1年未満] 6.[1年以上]

f. あなたの住居についてお尋ねします。

51 どのようなところに住んでいますか。	1.学校の留学生宿舍 2.公益法人の留学生宿舍 3.民間の留学生宿舍 4.学校の一般学生寮 5.賃貸住宅 6.下宿
----------------------	--

最後に39～43番で答えた費用をどこから集めたかお尋ねします。52～56から集めた額をそれぞれお答え下さい。

52 親族からもらった額	1.[0円]	2.[1～50,000円]	3.[50,001～75,000円]
	4.[75,001～100,000円]	5.[100,001～125,000円]	6.[125,001～150,000円]
	7.[150,001～175,000円]	8.[175,001～200,000円]	9.[200,001～250,000円]
	10.[250,001～300,000円]	11.[300,001円以上]	
53 親族から借りた額	1.[0円]	2.[1～50,000円]	3.[50,001～75,000円]
	4.[75,001～100,000円]	5.[100,001～125,000円]	6.[125,001～150,000円]
	7.[150,001～175,000円]	8.[175,001～200,000円]	9.[200,001～250,000円]
	10.[250,001～300,000円]	11.[300,001円以上]	
54 金融機関から借りた額	1.[0円]	2.[1～50,000円]	3.[50,001～75,000円]
	4.[75,001～100,000円]	5.[100,001～125,000円]	6.[125,001～150,000円]
	7.[150,001～175,000円]	8.[175,001～200,000円]	9.[200,001～250,000円]
	10.[250,001～300,000円]	11.[300,001円以上]	
55 奨学金からの額	1.[0円]	2.[1～50,000円]	3.[50,001～75,000円]
	4.[75,001～100,000円]	5.[100,001～125,000円]	6.[125,001～150,000円]
	7.[150,001～175,000円]	8.[175,001～200,000円]	9.[200,001～250,000円]
	10.[250,001～300,000円]	11.[300,001円以上]	
56 自分の貯金からの額	1.[0円]	2.[1～50,000円]	3.[50,001～75,000円]
	4.[75,001～100,000円]	5.[100,001～125,000円]	6.[125,001～150,000円]
	7.[150,001～175,000円]	8.[175,001～200,000円]	9.[200,001～250,000円]
	10.[250,001～300,000円]	11.[300,001円以上]	

以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

奨学金に関するアンケート

※このアンケートは私費留学生を対象としております。国費留学生の方はお答え頂く必要はございません。

※すべての質問について、あてはまるもの1つのみ選んで解答用紙(マークシート)にご記入ください。

I 奨学金についてお尋ねいたします。

1 私費留学生のために以下の条件で、返済の義務がある奨学金があった場合、あなたは利用を希望していましたか。

- ・奨学金は渡航費、入学金、住宅敷金、授業料などのために貸付けられる。
- ・留学生は日本に滞在中に奨学金を返済する
- ・利息は年利0%~1%とする

- 1.利用したいと思わない 2.利用したいと思う

2 この奨学金制度による貸付金額はいくらぐらいが良いと思いますか。

- 1.[100,000円未満] 2.[100,001~200,000円] 3.[200,001~400,000円]
4.[400,001~600,000円] 5.[600,001~800,000円] 6.[800,001~1,000,000円]
7.[1,000,001~1,200,000円] 8.[1,200,001~1,400,000円] 9.[1,400,001~1,600,000円]
10.[1,600,001~1,800,000円] 11.[1,800,001円以上]

3 2で答えた金額の奨学金をあなたが借りたとして、どれぐらいの期間で返済が出来ると思いますか。

- 1.[1年未満] 2.[1年] 3.[2年] 4.[3年] 5.[4年] 6.[5年] 7.[6年] 8.[6年以上]

4 2で答えた金額の奨学金をあなたが借りたとして、毎月いくらず返済が出来ると思いますか。

- 1.[5,000円未満] 2.[5,001~10,000円] 3.[10,001~15,000円]
4.[15,001~20,000円] 5.[20,001~25,000円] 6.[25,001~30,000円]
7.[30,001~35,000円] 8.[35,001~40,000円] 9.[40,001円以上]

5 4で答えた金額をどのようにして返済することが出来ると思いますか。

- 1.親類からの仕送り 2.アルバイト 3.他の奨学金 4.保証人等からの援助 5.配偶者(夫又は妻)の収入 6.その他

6 この奨学金をあなたが借りたとして、来日してからどれぐらい過ぎてから返済を始める事が出来ると思いますか。

- 1.[来日直後から返済が可能] 2.[2ヶ月未満] 3.[2ヶ月以上6ヶ月未満] 4.[6ヶ月以上]

7 保証人が必要であったら、誰にお願いできますか。

- 1.保証人を付ける事は出来ない 2.日本語学校 3.大学、短期大学、専門学校
4.大学・学校の指導教員 5.日本人の知人 6.日本人以外の知人
7.国際交流団体 8.在日大使館の職員等 9.日本に住んでいる親類
10.母国に住んでいる親類 11.その他

II あなたの生活についてお尋ねします。

a. あなた自身の事・現在通っている学校などについてお尋ねします。

8	あなたの性別はどちらですか。	1.男	2.女			
9	あなたの年齢はいくつですか。	1.[20歳未満]	2.[20～24歳]	3.[25～29歳]	4.[30～34歳]	5.[35歳以上]
10	どこに住んでいますか。	1.東京都	2.東京都以外の関東	3.大阪府	4.大阪府以外の近畿	
		5.東海	6.中国・四国	7.九州	8.北陸・信越	
		9.東北・北海道				
11	学校ではどの課程で学んでいますか。	1.大学院博士課程	2.大学院修士課程	3.学部正規課程		
		4.学部レベルの研究生・聴講生		5.大学の留学生別科		
		6.その他				
12	あなたの専攻は何ですか。	1.社会科学(政治・経済・社会学など)	2.人文科学(文学、言語学、歴史学など)			
		3.工学	4.医歯薬学	5.教員養成等		
		6.農学	7.芸術	8.家政		
		9.理学				
		10.その他				
13	学校の授業はどのくらい出席していますか。	1.[ほぼ100%]	2.[80%～90%]	3.[60%～80%]	4.[60%未満]	
14	日本に来て何年たちますか。	1.[1年未満]	2.[1～2年未満]	3.[2～3年未満]	4.[3～4年未満]	
		5.[4～5年未満]	6.[5年以上]			
15	今後どのくらい日本に滞在する予定ですか。	1.[1年未満]	2.[1～2年未満]	3.[2～3年未満]	4.[3～4年未満]	
		5.[4～5年未満]	6.[5年以上]	7.[未定]		
16	あなたの日本語のレベルはどのくらいですか。	1.上級(日本語能力試験1級レベル)	2.中級(2級レベル)			
		3.初級①(3級レベル)	4.初級②(4級レベル)	5.初級以下		
17	現在通っている学校を卒業後は何をする予定ですか。	1.母国で就職	2.母国で進学	3.日本で就職	4.日本で進学	
		5.母国・日本以外で就職	6.母国・日本以外で進学	7.その他		
18	将来の希望業種は何ですか。	1.国際機関	2.公務員	3.製造業	4.商社・流通	5.研究職・教職
		6.金融	7.情報処理・ソフトウェア	8.通信・情報・マスコミ	9.サービス	
		10.医師・弁護士・会計士等	11.その他			
19	あなたの親・世帯主の職種は何ですか。	1.国際機関	2.公務員・教職員	3.農業・漁業・林業	4.自営業	
		5.会社員(一般)	6.会社員(管理職)	7.会社役員	8.研究職	
		9.医師・弁護士・会計士等	10.無職	11.その他		
20	あなたの国籍をお答え下さい。	国・地域別コードを参照(7ページ)				

b. あなたの生活の収入・支出についてお尋ねします。

21	1か月の平均的な収入の合計はどれくらいですか。	1.[0～100,000円]	2.[100,001～120,000円]	3.[120,001～130,000円]
		4.[130,001～140,000円]	5.[140,001～150,000円]	6.[150,001～160,000円]
		7.[160,001～170,000円]	8.[170,001～180,000円]	9.[180,001円以上]
22	そのうち、親族からの仕送りはどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～30,000円]	3.[30,001～50,000円]
		4.[50,001～60,000円]	5.[60,001～70,000円]	6.[70,001～80,000円]
		7.[80,001～90,000円]	8.[90,001～100,000円]	9.[100,001～120,000円]
23	そのうち、アルバイト収入はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～30,000円]	3.[30,001～50,000円]
		4.[50,001～60,000円]	5.[60,001～70,000円]	6.[70,001～80,000円]
		7.[80,001～90,000円]	8.[90,001～100,000円]	9.[100,001～120,000円]
24	そのうち、奨学金はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～30,000円]	3.[30,001～50,000円]
		4.[50,001～60,000円]	5.[60,001～70,000円]	6.[70,001～80,000円]
		7.[80,001～90,000円]	8.[90,001～100,000円]	9.[100,001～120,000円]
25	そのうち、保証人などからの援助はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～20,000円]	3.[20,001～30,000円]
		4.[30,001～40,000円]	5.[40,001～50,000円]	6.[50,001～60,000円]
		7.[60,001～70,000円]	8.[70,001～80,000円]	9.[80,001～100,000円]
26	そのうち、配偶者(夫又は妻)の収入はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～60,000円]	3.[60,001～80,000円]
		4.[80,001～90,000円]	5.[90,001～100,000円]	6.[100,001～110,000円]
		7.[110,001～120,000円]	8.[120,001～130,000円]	9.[130,001～150,000円]
27	そのうち、その他の収入はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～10,000円]	3.[10,001～20,000円]
		4.[20,001～30,000円]	5.[30,001～40,000円]	6.[40,001～50,000円]
		7.[50,001～60,000円]	8.[60,001～70,000円]	9.[70,001～90,000円]
28	1か月の平均的な支出の合計はどれくらいですか。	1.[0～120,000円]	2.[120,001～130,000円]	3.[130,001～140,000円]
		4.[140,001～150,000円]	5.[150,001～160,000円]	6.[160,001～170,000円]
		7.[170,001～180,000円]	8.[180,001～190,000円]	9.[190,001円以上]
29	そのうち、授業料はどれくらいですか。 [1年間の授業料を12で割って下さい。 入学金は入れないで下さい。]	1.[無し]	2.[1～10,000円]	3.[10,001～30,000円]
		4.[30,001～40,000円]	5.[40,001～50,000円]	6.[50,001～60,000円]
		7.[60,001～70,000円]	8.[70,001～80,000円]	9.[80,001～100,000円]
30	そのうち、教科書、実習教材、文具、サークル活動費など学校生活にかかる費用はどれくらいですか。(1か月の平均)	1.[無し]	2.[1～11,000円]	3.[11,001～13,000円]
		4.[13,001～14,000円]	5.[14,001～15,000円]	6.[15,001～16,000円]
		7.[16,001～17,000円]	8.[17,001～18,000円]	9.[18,001～20,000円]
		10.[20,001円以上]		

大学・大学院生アンケート

31	そのうち、定期代などの通学費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～4,000円]	3.[4,001～6,000円]
		4.[6,001～7,000円]	5.[7,001～8,000円]	6.[8,001～9,000円]
		7.[9,001～10,000円]	8.[10,001～11,000円]	9.[11,001～13,000円]
		10.[13,001円以上]		
32	そのうち、食費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～26,000円]	3.[26,001～30,000円]
		4.[30,001～32,000円]	5.[32,001～34,000円]	6.[34,001～36,000円]
		7.[36,001～38,000円]	8.[38,001～40,000円]	9.[40,001～44,000円]
		10.[44,001円以上]		
33	そのうち、家賃、寮費などの住居費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～22,000円]	3.[22,001～26,000円]
		3.[26,001～30,000円]	5.[30,001～34,000円]	6.[34,001～38,000円]
		7.[38,001～42,000円]	8.[42,001～46,000円]	9.[46,001～50,000円]
		10.[50,001円以上]		
34	そのうち、電気、ガス、水道料金などの光熱費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～4,000円]	3.[4,001～5,000円]
		4.[5,001～6,000円]	5.[6,001～7,000円]	6.[7,001～8,000円]
		7.[8,001～9,000円]	8.[9,001～10,000円]	9.[10,001～11,000円]
		10.[11,001円以上]		
35	そのうち、保険、医療費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～1,000円]	3.[1,000～2,000円]
		4.[2,001～3,000円]	6.[3,001～4,000円]	6.[4,001～5,000円]
		7.[5,001～6,000円]	8.[6,001～7,000円]	9.[7,001～8,000円]
		10.[8,001円以上]		
36	そのうち、趣味・娯楽費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～4,000円]	3.[4,001～6,000円]
		4.[6,001～7,000円]	5.[7,001～8,000円]	6.[8,001～9,000円]
		7.[9,001～10,000円]	8.[10,001～11,000円]	9.[11,001～13,000円]
		10.[13,001円以上]		
37	そのうち、その他の日常的な経費はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～9,000円]	3.[9,001～11,000円]
		4.[11,001～12,000円]	5.[12,001～13,000円]	6.[13,001～14,000円]
		7.[14,001～15,000円]	8.[15,001～16,000円]	9.[16,001～18,000円]
		10.[18,001円以上]		
38	収入から支出を引いて残る額(貯金など)はどれくらいですか。(1カ月の平均)	1.[無し]	2.[1～9,000円]	3.[9,001～11,000円]
		4.[11,001～12,000円]	5.[12,001～13,000円]	6.[13,001～14,000円]
		7.[14,001～15,000円]	8.[15,001～16,000円]	9.[16,001～18,000円]
		10.[18,001円以上]		

c. あなたが来日したとき・大学に入学したときそれぞれにかかった費用についてお尋ねします。

[来日したとき]				
39	渡航費	1.[0～50,000円]	2.[50,001～75,000円]	3.[75,001～100,000円]
		4.[100,001～125,000円]	5.[125,001～150,000円]	6.[150,001～175,000円]
		7.[175,001～200,000円]	8.[200,001～250,000円]	9.[250,001円以上]
40	家賃以外の住居費(敷金・礼金)	1.[0～50,000円]	2.[50,001～75,000円]	3.[75,001～100,000円]
		4.[100,001～125,000円]	5.[125,001～150,000円]	6.[150,001～200,000円]
		7.[200,001～300,000円]	8.[300,001～400,000円]	9.[400,001円以上]

大学・大学院生アンケート

41 家財道具等	1.[0～50,000円]	2.[50,001～75,000円]	3.[75,001～100,000円]
	4.[100,001～125,000円]	5.[125,001～150,000円]	6.[150,001～175,000円]
	7.[175,001～200,000円]	8.[200,001～250,000円]	9.[250,001円以上]

[大学に入学したとき]

42 入学金 [授業料は入れないで下さい]	1.[0～150,000円]	2.[150,001～200,000円]	3.[200,001～250,000円]
	4.[250,001～300,000円]	5.[300,001～350,000円]	6.[350,001円以上]

43 その他初年度納入金 [授業料は入れないで下さい]	1.[0～150,000円]	2.[150,001～200,000円]	3.[200,001～250,000円]
	4.[250,001～300,000円]	5.[300,001円以上]	

44 39～41の費用を含めて、あなたが来日したときいくらぐらいの資金を持っていたか。	1.[0～200,000円]	2.[200,001～400,000円]	3.[400,001～600,000円]
	4.[600,001～800,000円]	5.[800,001～1,000,000円]	6.[1,000,001～1,500,000円]
	7.[1,500,001～2,000,000円]	8.[2,000,001円以上]	

45 現金・預金を合わせた現在の所持金はいくらですか。	1.[0～50,000円]	2.[50,001～100,000円]	3.[100,001～150,000円]
	4.[150,001～200,000円]	5.[200,001～250,000円]	6.[250,001～300,000円]
	7.[300,001～350,000円]	8.[350,001～400,000円]	9.[400,001円以上]

d. 奨学金についてお尋ねします。

46 どの奨学金をもらっていますか。	1.もらっていない 2. 母国政府・地方自治体からの奨学金			
	3.母国の民間団体・基金からの奨学金 4.日本政府からの奨学金(国費外国人留学生) 5.学習奨励金 6.日本の地方自治体からの奨学金 7.日本の民間団体からの奨学金 8.学校からの奨学金 9.その他の奨学金			

e. アルバイトについてお尋ねします。

47 どのようなアルバイトをしていますか。	1.やっていない 2.講師・教師 3.一般事務 4.飲食業 5.清掃 6.配達・運送 7.営業販売 8.工場 9.コンピューター・プログラマー 10.その他					

48 1週間のアルバイト時間数はどれくらいですか。 (学校のある期間・平均)	1.[やっていない]	2.[5時間未満]	3.[5以上10時間未満]	4.[10以上15時間未満]
	5.[15以上20時間未満]	6.[20以上25時間未満]	7.[25時間以上]	

49 長期休暇中の1週間のアルバイト時間数はどれくらいですか。 (夏休み等・平均)	1.[やっていない]	2.[5時間未満]	3.[5以上10時間未満]	4.[10以上15時間未満]
	5.[15以上20時間未満]	6.[20以上25時間未満]	7.[25時間以上]	

50 来日してどれくらいしてからアルバイトを始めましたか。	1.[やったことがない]	2.[1ヶ月未満]	3.[1ヶ月以上3ヶ月未満]
	4.[3か月以上6か月未満]	5.[6か月以上1年未満]	6.[1年以上]

f. あなたの住居についてお尋ねします。

51 どのようなところに住んでいますか。	1.学校の留学生宿舎 2.公益法人の留学生宿舎 3.民間の留学生宿舎		
	4.学校の一般学生寮 5.賃貸住宅 6.下宿		

最後に39～43番で答えた費用をどこから集めたかお尋ねします。52～56から集めた額をそれぞれお答え下さい。

52 親族からもらった額	1.[0円]	2.[1～50,000円]	3.[50,001～75,000円]
	4.[75,001～100,000円]	5.[100,001～125,000円]	6.[125,001～150,000円]
	7.[150,001～175,000円]	8.[175,001～200,000円]	9.[200,001～250,000円]
	10.[250,001～300,000円]	11.[300,001円以上]	
53 親族から借りた額	1.[0円]	2.[1～50,000円]	3.[50,001～75,000円]
	4.[75,001～100,000円]	5.[100,001～125,000円]	6.[125,001～150,000円]
	7.[150,001～175,000円]	8.[175,001～200,000円]	9.[200,001～250,000円]
	10.[250,001～300,000円]	11.[300,001円以上]	
54 金融機関から借りた額	1.[0円]	2.[1～50,000円]	3.[50,001～75,000円]
	4.[75,001～100,000円]	5.[100,001～125,000円]	6.[125,001～150,000円]
	7.[150,001～175,000円]	8.[175,001～200,000円]	9.[200,001～250,000円]
	10.[250,001～300,000円]	11.[300,001円以上]	
55 奨学金からの額	1.[0円]	2.[1～50,000円]	3.[50,001～75,000円]
	4.[75,001～100,000円]	5.[100,001～125,000円]	6.[125,001～150,000円]
	7.[150,001～175,000円]	8.[175,001～200,000円]	9.[200,001～250,000円]
	10.[250,001～300,000円]	11.[300,001円以上]	
56 自分の貯金からの額	1.[0円]	2.[1～50,000円]	3.[50,001～75,000円]
	4.[75,001～100,000円]	5.[100,001～125,000円]	6.[125,001～150,000円]
	7.[150,001～175,000円]	8.[175,001～200,000円]	9.[200,001～250,000円]
	10.[250,001～300,000円]	11.[300,001円以上]	

以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設1	日本語教育施設2	日本語教育施設3	日本語教育施設4
I 受入体制：施設・組織					
1	受入可能留学生数：在学数、卒業数、中途退学数。	在籍数200人（定数240人）毎年100名程度卒業、当校は河合塾グループ経営の専門学校であるため、進路の変更を行い他の分野に進んだり、途中で一般企業への就職等があるため、かなり中途退学者は多い（半年で20名程度）。しかし経済的問題で退学する等の否定的な意味での中途退学者は年間1人か2人程度。	日本語学科（本校）・日暮里校併せて720～730名在籍。900名程度は受入可能。今春卒業生は320名。韓国で大学を休学し、1年の語学研修で在籍している学生は3月末を待たずに帰国する。こうした学生を含めると中途退学者は20%。中国の学生を増やしたら、進学目的の学生のドロップアウト率が5%を超えてしまい。不適格となってしまった。今はそうした学生を再び減らしている。	現在385名在籍。うち43名は大学進学希望の日本語課程に在籍。ドロップアウト率は5%程度。同校は留学生ビザを持つ学生が在籍する専門学校。語学の習得だけを目的とした専門課程もある。	定数351人、在学数324人、中途退者約20人弱（毎年）
2	留学生センター等の専門窓口は持っているか、その規模、職員数。	中国・韓国人用のカウンセラーを1人づつ配置、また事務局員5人が様々の指導を行っている。	スタッフ、職員5～6名	窓口スタッフ5名。教員7名。	学生課 5人 及び担当の先生が窓口となる。
3	留学生寮はあるか、その規模、入寮条件は。	156人受け入れ可能な寮がある。条件は特になし。	あり。定員50名程なので新入生を中心に入れている。同様に30名程度分のマンションの借上げを行っている。学生はアルバイトが見つかる、バイトの利便の良い適当な場所に引越しをする。	あり。希望者対象。定員46名。家賃は安いが自由な一人暮らしを望む学生が多い。	54人まで入居可能な寮がある。
4	海外現地窓口機関は持っているか。海外での募集媒体は。	韓国・台湾・中国に提携している代理店（旅行会社・日本語学校）がある。	ソウル、釜山に事務所があり、学生はそこに申し込みをする。エージェントは極わずか。中国では過去の卒業生など、人を介しての募集のみ。日本のスタッフが現地に赴き面接をしている。	海外提携校、エージェントを通し募集。東アジアが中心。	公式のものはない。但し、OB会が存在するとともに、当学校のOBが母国で日本語学校を開いたり、旅行会社を作っている。学生に対するインタビューのときも、これらの拠点において当校の噂を聞きつけ、入学を希望したものが多い。

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設1	日本語教育施設2	日本語教育施設3	日本語教育施設4
Ⅱ 受入体制：制度					
5	入学試験、入学審査方法	書類選考を行う。試験はない。経費支弁者の残高証明を入手する等の経済的な状況の審査は実施する。また代理店経由のものを除き、原則として郵送による願書受付は行っておらず、日本国代理人からの受領に限っている。この意味では韓国・台湾・香港以外の国の人は日本に代理人がいない限り入学は不可能である。代理人が入学願書を提出しに来たときに、代理人自体の面接を実施することになっている。但しこの方法も労働を目的として当校に入学をしようとする人物に対しては、日本側で用意したダミーの代理人が願書を提出するケースも多く、資料も偽造されていることが多いことから、問題も多い。	要件としては高卒以上。応募書類は入管で必要な書類。入管でもはじかれそうな書類を提出した人はここで落とす。現地で面接は行いが試験は無し。以前中国の採用担当者の不正で入学後行方の分からなくなった中国人を入れてしまった。福建省の人が多かったのも、今では同省の学生は断っている。日本に居る中国人からも入学の問合せが結構あるが、身元の不明な中国人は一切男と割っている。	日本語課程は書類選考が基本。中国からの応募者には現地で面接も行っている。専門課程は試験、面接を課す。	基本的に書類審査。当校においては学力と経済力の二本柱を重視している。経済力については経費支弁者の残高証明を取り寄せる等により審査を行っている。国についても送金が簡便に行える国を前提としており、中国はその意味では含まれていない。但し中国人であっても、日本に既に親類がいる場合があり、その人たちを経費支弁者とした場合は、中国からの留学生を受け入れている。現在入国管理局は実質的に日本語学校に入国審査業務の一部を行わせている。つまり日本語学校が適確と認めて入国したものは基本的には、入国できる。その後、授業への出席率が悪い等問題があると、当該日本語学校は「適格」から「不適確」へと格付けが下がり、当該日本語学校からのビザの申請等が困難となる。
6	奨学金制度・授業料減免制度・医療費補助はあるか。どのような内容か。	公的なものではないが、授業料減免措置を独自で実施している。またAIEJの学習奨励費・医療費補助制度の対象校であるため、これらの制度を用いている。	文科省学習奨励費5名。赤門会独自の奨学金年間16名（3ヵ月授業料免除）生徒会会長に全額免除、生徒会役員に半額免除。	学習奨励費、大阪府、大阪市の奨学金、学校独自の奨学金がある。（同校は留学生ビザの必要な専門学校である為奨学金も多い）これらの奨学金を受けている学生は全体の15～20%。成績、出席状況、ここの経済状況から審査。	国、府、市、当校の各々の奨学金制度がある。特に当校は一定の学業優秀者トップ10人には学校として30～40万円の奨学金を与え、それに続く50～60人には10万円程度の奨学金を与えている。その他にも大阪府・大阪市・文部科学省学習奨励費がある。
7	T A（ティーチングアシスタント）／R A（リサーチアシスタント）制度はあるか。利用状況はどうか。	日本語教師養成コースが存在する。このコースの生徒が他の留学生・就学生の面倒をみたりすることがある。	—	—	—

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設1	日本語教育施設2	日本語教育施設3	日本語教育施設4
Ⅲ 受入体制：生活支援					
8	住居の斡旋は行っているか。利用状況は。	提携している寮・不動産会社がある。しかし現在のところフル活用はされていない。当校は韓国籍の人が多く（愛知地方は韓国の人が多い）、知人が多いため知人の紹介によって一般の住居に入るケースが多い。	なし。学生が個別に探し、学校が保証人になっている。希ではあるが家賃の滞納の支払い、行方の分からなくなった学生の家賃を学校が被った事がある。教師が個人的に保証人になってあげる事もある。	民間賃貸住宅の紹介をしている。年に2回の入学期に50名～60名紹介出来るので、家主には礼金、敷金を安くしてもらっている。又、学生から保証会社に2年間で1万5千円を払わせ、連帯保証人になっている。	現在提携先があり、50名程度の生徒を住まわせている。本校が有している寮と併せて100～110人程度に寮を提供することが可能。（一学年は約150人程度）
9	ホームステイ先の紹介は行っているか。利用状況は。	ホームビジット（単に日本人の家に訪問する）制度はある。また個別にホームステイの依頼が民間からあるケースもあり、その場合個別にホームステイ希望先との面談を行い、生徒を募集することも行っている。	無し	登録しているファミリーはいる。随時インターネットで募集もしているが、例えば週末だけのホストファミリーであったり、年間を通し学生を受け入れる家庭は希有である。	無し
10	アルバイトの斡旋は行っているか。斡旋先、利用状況は。	無し	学校に求人が来たものを張り出す程度。学校側で探して欲しいという学生からの要望もない。	外部から求人が来たものは内容吟味の上掲示はする。アルバイト情報誌をロビーに置いている。	無し

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設1	日本語教育施設2	日本語教育施設3	日本語教育施設4
11	カウンセリングサービスを行っているか。利用状況は。	2 参照	相談窓口はないが、韓国人の職員が2人いるので、日本後が不十分な学生の相談も受けている。法律関係や事故等学生が解決できない事は事務局で相談に乗る。個人的な悩みは教師が受ける事が多い。学生が一番頼りにしている様子。	あらゆる生活上のトラブル、経済的な問題等事務局はいつでも相談を受ける。曜日を設定したカウンセリングというのは行っていない。	学生課 5人 及び担当の先生が窓口となる。
12	学習・研究補助（チューター制度等）の制度があるか。	—	—	—	—
13	就職指導は行っているか。学生の希望進路は。国内企業への就職状況は。	当校は専門学校であるため、日本人学生に対するものを行っている。このノウハウを留学生に対しても適用し、いくつかの進路指導は行っている。また進路指導は当然行っている。	週3回専門職員による進路相談を受け付けている。クラスの担任教員も個々の希望に応じた指導をする。	母体が専門学校なので就職についてはそちらのネットワークも利用するが卒業生のほとんどが帰国か進学。進学指導は個別に進路相談を行っている。大学からの資料の取り寄せ等も行っている。	基本的にすべての生徒が進学するため、就職指導は行っていない。但し進路指導は行っている。

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設1	日本語教育施設2	日本語教育施設3	日本語教育施設4
IV 貸与奨学金について					
14	貸与奨学金制度が導入された際、学生に対し積極的に利用を促すことは可能か。	当然可能。利用できる制度は多いほど歓迎する。	貸付金であるので学生の需要は高くないと思っていたが案外高く驚いた。学生にとっては50万でも貯める事は大変厳しい。入学の手続き段階でそうした資金を工面できない学生もそれなりにいて、友人に借りたり、教師に借りたりで急場を凌いでいる。赤門会の教師で基金を作ろうと考えた事もあった。貸付金である為積極的にとはいえないが、そうした学生には利用させたい。	制度自体を詰める必要があると考える。まず、留学生は突然帰国する事があるし、それは阻止できない。安易に借りようとする学生を如何に排除するか。学費の支払いが出来ないと学生は容易に言うてくる。よくよく話を聞いてみると何とかなるケースが多い。	宣伝のみは可能である。しかし現在でも150人程度の卒業生に対して卒業・大学入学に関連した多くの手続きがあり、これ以上事務を増やしたくない。
15	貴校として、学生の推薦については協力は可能か。	可能。例えば学習奨励費の選考にあたっては今年度は40名ほどを選考の対象として、その中で10名を選抜した。当該40名については推薦可能。貸倒率20%程度。	現在真面目な学生を推薦する事は可能であるがその後は保証できない。依然どうしても20万円が用意できないという学生に個人的に貸した事があった。とても真面目な学生だったが結局返してもらっていない。新規に入学する学生の推薦は難しい。貸与奨学金が利用できることを前提に入学されるのは困る。	入学して間も無い学生についての推薦は難しいが、学校での実績、生活態度をある程度見た後であれば可能。しかし、貸与の奨学金であれば実施機関がきちんと面接をする必要があると考える。	現在優秀な生徒60～70名に対して奨学育英資金を提供している。これらの生徒にはこれ以上資金は必要ないと思われる他、経済的に問題のない生徒を選抜しているため、借入自体を拒否する可能性が高い。またこの奨学育英資金の選考に漏れた生徒はやはり何らかの問題がある場合が多く、推薦自体できない。
16	仮に貸与奨学金に連帯保証が必要となる場合、学生の連帯保証となる事は可能か。過去においてそのような経験はあるか。	連帯保証は行っていない。家などのための身元保証は行うケースがある。	学校として連帯保証をする事は不可能。教師個人も（前述のようなケースもあり）とても出来ない。	不可能。以前は住宅の連帯保証を学校がしていたが、家賃の踏み倒しや退去時の毀損等学校が負担を被る事が増えてきた為、保証会社を入れるようになった。	連帯保証はできない。また実施した経験もない。
17	学生に対し、奨学金の貸付を行っているか、行っている場合の業務の範囲（債権管理・回収・事務手続等）又、これから行う予定はあるか。	無し。授業料の延納等を認めるケースはある。	無し	無し	無し

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設5	日本語教育施設6	日本語教育施設7	日本語教育施設8
I 受入体制：施設・組織					
1	受入可能留学生数：在学数、卒業数、中途退学数。	320人在籍（韓国6：中国2：台湾0.5：香港0.5）うち進学希望者6割。 昨年度卒業生数：260名 中途退学者：短期就学生を含め120名 進学目的の学生のドロップアウト率は10%。理由は学業の問題。	在学数：400名（1、2年次合計）、卒業数：2～3,000名（創立1989年）。不登校脱落者は現在のところいない。目的を持った堅実な入学者を厳選している。大学への進学が難しい場合は、本人が目的を持って専門学校に早めに入校する場合はある。	大学進学準備2年コース：380名 大学進学準備1.5年コース：140名 日本語コース（2年）：20名 合計540名 国別内訳：中国45%、韓国45% 平均在学期間約2年として、卒業生は毎年270名。 途中退学：10名程度/年。理由は、目標喪失、アルバイト・学業の両立困難、ホームシック等	現在273名在籍。卒業生は累計6,000人程度。ドロップアウト率は1～2%。ドロップアウト率が低いのは厳選な選考による。
2	留学生センター等の専門窓口は持っているか、その規模、職員数。	スタッフ、職員4名	専門窓口はないが、事務局（教務課）があらゆる相談窓口となっている。	学生部。職員数は、9名	—
3	留学生寮はあるか、その規模、入寮条件は。	あり。江戸川区。定員48名新入生を先着順に入れる。家賃3ヵ月10万。	学院の近くの住居を借上げている。風呂付きで複数の部屋の住居。1人4万円前後の負担。学院が少々の追加負担で運営。1年生の一部が入居。その間に本人が住居を探す	入学直後は、基本的に入寮。 舞鶴寮：172名収容 西新国際寮：収容人員不明	民間の留学生住宅と提携している。入居の際に4～5ヵ月分の保証金を入れる。 留学生はバイトが変わるたびに引越しをしたり、家の転賃は当たり前に行う。民間の賃貸住宅を借りるのにはトラブルが多すぎる。
4	海外現地窓口機関は持っているか。海外での募集媒体は。	留学院（現地のエージェント）を含め、現地事務所は韓国12箇所、中国2箇所（大連、瀋陽）、台湾2箇所、香港1箇所。中国人留学生の管理は難しいので、学生数を2割に抑えている。大連、瀋陽の2都市の訳は縁故がある為。留学院とは専属契約ではない。フィーは入学が決まった学生1人当たりいくら、という契約。	中国に窓口あり。具体的な広報活動方法は不明。口コミの影響に依存。応募の9割以上が卒業生の紹介である。	中国の場合、エージェントがほとんど。 韓国も、エージェントによる場合が多いが、5校ある姉妹校からの入学も。	韓国事務所あり。募集媒体は学生・卒業生の口コミが主。韓国では紹介屋と呼ばれる斡旋業者があり、一人12～13万の斡旋料を取り学校から入国までの手続きをアレンジする。そうした業者は一切使わず現地での出張面接を行い確かな人物のみを入学させている。

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設5	日本語教育施設6	日本語教育施設7	日本語教育施設8
Ⅱ 受入体制：制度					
5	入学試験、入学審査方法	国により異なる。 韓国：現地エージェントによる書類審査・面接 中国：1次現地エージェントによる書類審査・面接。2次事務局長が現地に出席して面接。 台湾：現地事務所による書類審査・面接 香港：現地事務所による書類審査・面接 中国での面接は1次で半数くらい落とす。事務長の行う面接は保証人に同席させ、まず中国語できちんと話が出るか、次に学習意欲を見る。	開校当初は書類審査（学歴は正しいか等）と面接のみ。現在は中国で数学、国語、英語の筆記試験を実施。成績審査は本部で行う。特に数学、国語の学力のある人を選出。大学の授業に付いて行くためには数学、国語の基礎学力が必要である。大学入学の費用に当てる意味も含めて50万円の保証金を用意してもらう。それだけ資力のある家庭である。学生は卒業生の紹介が多いと述べたが、中国社会では友人は同様の家庭環境である。人間的にある程度信用できる。	＜第1次＞ 選考方法：書類審査、学科試験及び面接 第1次選考書類：入学願書、卒業証明書（JLPT）、成績証明書、支弁能力概要書 ＜第2次＞ 選考方法：書類審査 第2次選考書類：日本語学習証明書、健康診断書、卒業証明書（原本）、在学証明書、学費寮費納入誓約書、外貨残高証明書、預金証明書、公証書、経費支弁者在職証明書・収入証明書、本人・経費支弁者関係証明書	①書類審査：目的意識と書類の整合性をチェックし、30～40%を落とす。②入学の2ヵ月前に保護者同伴面接を実施ここで書類の確認も全て行う。（上海、北京、大連、韓国は現地事務所が実施）
6	奨学金制度・授業料減免制度・医療費補助はあるか。どのような内容か。	文科省学習奨励費2名。学校独自の奨学金年間2～3名（3ヵ月授業料免除）。生徒が各自給付を受けている奨学金はほとんど無いだろう。	奨学金制度はない。立案はしたが、回収に諸問題があり断念した。医療については学院周辺の医療機関を紹介している。重大な病気は本国での治療を勧める。	皆勤賞：@10,000円 文部科学省学習奨励費：3人（2001年） 国民健康保険：20,000円/年（本人負担30%）	学習奨励費は2名受けている。この2名は出席率、成績、人物評価から選考した。
7	TA（ティーチングアシスタント）／RA（リサーチアシスタント）制度はあるか。利用状況はどうか。	—	—	—	—

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設5	日本語教育施設6	日本語教育施設7	日本語教育施設8
Ⅲ 受入体制：生活支援					
8	住居の斡旋は行っているか。利用状況は。	民間の留学生寮運営会社（Jドリーム、ハハムネ、FSA等）と提携。入学当初は9割の学生が入居。共同生活を嫌い（3LDKに5～6人というところも）自分で探す学生も多い。民間住宅は以下の条件で学校が保証人になる。①入国後3ヵ月以上②その間学校の出席率90%以上③5万円の預り金を徴収④2万円の手数料を徴収。最近は利用者が少ない。賃貸住宅市場の低迷で外国人に貸す大家も増えてきた。外国人可の住宅は口コミで情報が広がる。	無し	無し	前述の提携留学生住宅のみ。
9	ホームステイ先の紹介は行っているか。利用状況は。	無し	無し	無し	無し。そもそも日本語学校就学生を対象とするボランティアのホームステイがほとんどない。YWCAが行っているくらい。
10	アルバイトの斡旋は行っているか。斡旋先、利用状況は。	たまに学校に求人が来る。留学生の求人は以前よりも増えている。学生は先輩や友人の紹介で探すことが多い。	無し。アルバイトを勧めていない。	掲示板を設けているが、件数少なく機能していない。	以前斡旋料を取り紹介を行っていた学校がり、入管法で禁じられた。アルバイト紹介は一切やらない。

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設5	日本語教育施設6	日本語教育施設7	日本語教育施設8
11	カウンセリングサービスを行っているか。利用状況は。	相談窓口は特にない。日常生活のトラブルは学校の事務局が相談を受けることが時々ある。	職員が相談者になっている。中国語のできる日本人と日本の大学を卒業した中国人。	事務局窓口にて行っている。	学生の精神的な悩みを学校が聞き手になる事はしょっちゅう。学生は一番に担任の教師に話すようだ。
12	学習・研究補助（チューター制度等）の制度があるか。	—	—	—	—
13	就職指導は行っているか。学生の希望進路は。国内企業への就職状況は。	進路相談あり。進学希望者の進学率9割。 大学院：1割弱、大学：4割、残：専門学校（ビジ初系が多い）進路指導は6月にスタート。	8割方が大学卒業後日本企業に就職している。日本企業通訳を生業とする場合でも2～3年日本で働いて企業文化を知り、本国へ戻るのがよい。外語大出の中国語専攻日本人には負けてしまう。	進学がほとんど。	進学指導はテスト対策がカリキュラムに組み込まれている。その他志望校毎の対策は先輩の受験体験記等ノウハウとして残されたものを活用。

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設5	日本語教育施設6	日本語教育施設7	日本語教育施設8
IV 貸与奨学金について					
14	貸与奨学金制度が導入された際、学生に対し積極的に利用を促すことは可能か。	数を限定して、ということなら可能。	有償奨学金について、たくさん貸し付ければ返済が大変となり、アルバイト時間が多くなり、勉強がおろそかになる。	可能。 エージェントに情報を流すことにより効果大。	当然可能。
15	貴校として、学生の推薦については協力は可能か。	希望者がどれくらいいるかは不明であるが、例えば9割以上の出席率、成績上位、両親からの保証がとれるといった条件で選んだ一定以上の学生なら推薦出来る。新規に入学する学生の推薦は難しい。貸与奨学金が利用できることを前提に入学されるのは困る。	今回の有償奨学金のパンフレットをおくことはできる。奨学生選出については学校推薦を望む。学生の状況を把握しているので公平な判断基準になる。	可能。	推薦の基準を明確に設けてもらえば可能。成績、出席率で線を引く事となろう。
16	仮に貸与奨学金に連帯保証が必要となる場合、学生の連帯保証となる事は可能か。過去においてそのような経験はあるか。	学校として連帯保証をする事は不可能。身元保証も学生が卒業してしまったら難しい。	—	不可能。	不可能。日本語学校の場合、卒業後の消息をたどる事は出来ない為。保証を負う程の経済的余裕もない。
17	学生に対し、奨学金の貸付を行っているか、行っている場合の業務の範囲（債権管理・回収・事務手続等）又、これから行う予定はあるか。	無し	無し	無し	無し

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設9	日本語教育施設10
I 受入体制：施設・組織			
1	受入可能留学生数：在学数、卒業数、中途退学数。	現在在籍は約300人（440人収容可能）、中国・韓国がそれぞれ約45%、他国（ミャンマー・バングラデシュ・イタリア）が約10%。今春卒業生は180名、来春もほぼ同数。復学準備などによる理由を除いた中途退学者は年数名程度。	ドロップアウト率は7～8%。不法滞在を目的とした悪意の学生は毎年5%以内に抑える努力をしているが、それでも若干数はそうした学生が居る。入学時期は4月が7割残りが10月。中国は4月入学がメイン。
2	留学生センター等の専門窓口は持っているか、その規模、職員数。	事務局スタッフは9名。	
3	留学生寮はあるか、その規模、入寮条件は。	16カ所、170名収容の寮あり。月17,000～38,000円。中国からの就学生は全員寮に入れるように配慮。食器・布団などは無料で提供している。	あり。100～150名収容可。新入生を中心に利用させている。
4	海外現地窓口機関は持っているか。海外での募集媒体は。	中国の場合、合作校（3）・エージェント（5）・提携校（1）及び卒業生の親類の紹介が主。韓国の場合は、姉妹校（時事日本語学院）やエージェントからの紹介。台湾・韓国では以前に留学雑誌への広告掲載も行ったことがある。	中国は政府が認可した送出し機関を利用。韓国は留学院を利用。

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設9	日本語教育施設10
Ⅱ 受入体制：制度			
5	入学試験、入学審査方法	中国の場合…1次：書類審査、2次：面接（本人・保証人）・筆記試験（日本語。将来は英語・数学も検討）を行い、必要に応じて家庭訪問も行う。最終的に書類照合をして選考している。年3～4回選考のため現地に派遣している	4月入学生の場合、9月から現地で説明会を始める。11月には書類を整えさせ、審査し、本人の面接に併せて支弁者の面接も行う。面接は全員に行うが、韓国の場合は留学院に任せている。審査時の残高証明は日本円にして300万程度を目安にしている。
6	奨学金制度・授業料減免制度・医療費補助はあるか。どのような内容か。	優秀者に対して担任の推薦による学習奨励費を支給。皆勤賞制度あり。文部科学省学習奨励費は今年度は3名、昨年度は2名。来日時オリエンテーションで国民健康保険への加入をすすめている。	文科省学習奨励費。学校独自の奨学金半期毎1名に3万円支給。
7	T A（ティーチングアシスタント）／R A（リサーチアシスタント）制度はあるか。利用状況はどうか。	—	—

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設9	日本語教育施設10
Ⅲ 受入体制：生活支援			
8	住居の斡旋は行っているか。利用状況は。	寮以外では、不動産店の物件を紹介している。出席率80%以上の生徒については経営母体法人の代表者が保証人となっている。	紹介はしていない。住宅の保証人は職員や教師が個人的に引き受けるケースのみ。
9	ホームステイ先の紹介は行っているか。利用状況は。	イタリア人学生の短期留学の際に利用しているのみ。	—
10	アルバイトの斡旋は行っているか。斡旋先、利用状況は。	斡旋はおこなっていない。	—

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設9	日本語教育施設10
11	カウンセリングサービスを行っているか。利用状況は。	事務局が建物の入り口（1階）にあるので、様子が変わった生徒については適宜呼び出して面談を行っている。担任も相談に乗っている。	学校窓口、教員。
12	学習・研究補助（チューター制度等）の制度があるか。	—	—
13	就職指導は行っているか。学生の希望進路は。国内企業への就職状況は。	就職指導はおこなっていないが、卒業後就労ビザを取得する生徒は3～4人/年いる。進学については、3～4名の進学担当職員が3カ月ごとにカウンセリングを行うなど希望進路についての相談を受けている。	

日本語教育施設へのインタビュー

		日本語教育施設9	日本語教育施設10
IV 貸与奨学金について			
14	貸与奨学金制度が導入された際、学生に対し積極的に利用を促すことは可能か。	可能だと思う。	可能。対象人数が多ければ学生の学習意欲を高める良いモチベーションになる。
15	貴校として、学生の推薦については協力は可能か。	可能だと思う。	可能。返済の面で確かな人物ということであれば10名程度は推薦できる。 新規に日本語学校に入学する学生の推薦については、本人の素行を見ていないので現段階では難しい。
16	仮に貸与奨学金に連帯保証が必要となる場合、学生の連帯保証となる事は可能か。過去においてそのような経験はあるか。	不可能。	保証は難しい。
17	学生に対し、奨学金の貸付を行っているか、行っている場合の業務の範囲（債権管理・回収・事務手続等）又、これから行う予定はあるか。	無し	無し

大学へのインタビュー

対象教育機関		国立1	私立1	国立2	私立2
I 受入体制：施設・組織					
1	受入可能留学生数：在学数、卒業数、中途退学数。	私費：1181在籍（学部：59、学部研究生：36、大学院：1058、院研究生：15、研究所16） 国費：772名 外国政府派遣：26 ・受入数は定員化はしていない。 ・研究生は大学院の予備課程のように位置づけられている。 ・学位が取り難いので、学位を取得しなかった学生をドロップアウトとは言えない。文系の博士が取り難い事も日本の教育が抱えるひとつの問題。留学生は博士取得の希望があるので、取得しやすくしようという動きがある。	在籍：688（学部生：505、修士：106、博士：75、その他：2） 内経済学部117名 以下経済学部について、 学費未納除籍：2～3名 退学：2名	在籍：781（学部：172、修士：176、博士：305、研究生：128） 主たる出身国：（中国248、韓国154、インドネシア761、タイ53、マレーシア35、バングラ24、ベトナム22） 平均在学年数：約3年。従って、毎年約250名が卒業する。 中途退学：正確に把握できていない。おそらく毎年2～5名ぐらい。	在籍：683（うち別科130） ・別科は1年間である。 ・ほぼ毎年240名程度の卒業である。 ・留学生に対するドロップ・アウトの統計は取っていないが、5から10%以下である。
2	留学生センター等の専門窓口は持っているか、その規模、職員数。	あり。	専属1名	留学生課 常勤：10名 非常勤：実質3名	学生（全般）生活課 7人、国際課 20名程度
3	留学生寮はあるか、その規模、入寮条件は。	あり。 留学生用宿舎：443名（国費185名、私費258名） 一般学生用宿舎：27名（国費7名、私費20名） 学校設置以外の留学生用宿舎、社員寮：277名 公団住宅：83名 民間住宅：1080名 ホームステイ：11名 その他：18名	無し	横浜市青葉区に2つの寮あり。 松風留学生会館：46男子室、5夫婦室 梅が丘留学生会館：31男子室、19女子室、10夫婦室 しかし、居室数が留学生の数に比して少なく、大部分の留学生は民間のアパート等に住んでいる。寮施設は希少なため、入居可能期間は1年。	ある。音羽に60人規模（2万5千円/1ヶ月）、八王子に100人規模
4	海外現地窓口機関は持っているか。海外での募集媒体は。	—	無し	海外104校と交流がある。主に交換留学。	韓国・台湾に現地コンサルタントに依頼して現地選考も行っている。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立3	私立4	国立3	公立1
I 受入体制：施設・組織					
1	受入可能留学生数：在学数、卒業数、中途退学数。	在籍：477（正規生271（国費41、私費230）、非正規生（研究生等）38（国費12、私費26）、別科生168（国費6名、私費162名））。 ・在学者は中国・韓国が圧倒的に多いが、大学院は34カ国、大学は15カ国から受入れ。 ・1999年度の卒業生：学部20名、修士54名、博士（学位取得）10名 ・中途退学：10名程度。	在籍：531（学部333、研究科前期：108、研究科後期：67、研究生：23） 主たる出身国：（中国：275、韓国：154、台湾：30） 国私別：（国費：25、協定校：35、私費：471） 卒業：84名（2001年3月）中途退学：11名（同年5月現在） ・中途退学者には、学費の納入が出来なくなった経済除籍者も含まれる。 ・経済除籍者を減らすためにセンター、学務課で応急措置としての貸付けなどのあらゆる措置を行っている。	正規生在籍：348（学部143、大学院205） 非正規生（研究生等）在籍：244 中途退学：学部生1割程度。院生は3割程度。	在籍：204（学部生：27、修士：53、博士：80、研究生：44） 国・私別：（国費：37、都費：4、私費：163） 主たる出身国：（中国：127、韓国：41、バングラディシュ：5）
2	留学生センター等の専門窓口は持っているか、その規模、職員数。	国際センターが三田（職員24人）・日吉（3人）・矢上（2人）の各キャンパスにあるほか、湘南藤沢・日吉ビジネススクール・医学部の各キャンパスでは他部署が兼務で留学生窓口となっている。国際センターにはこのほか非常勤スタッフもいる。	留学生受入れ、日本人学生の海外留学を扱っている。（別紙）	職員数：7名、非常勤職員：3名	学生部学生課に留学生担当2名、非常勤カウンセラー1名（週2日）
3	留学生寮はあるか、その規模、入寮条件は。	留学生向けの借上げ宿舍が私費留学生2カ所（13部屋）、交換留学生用9カ所（70部屋）にある。私費留学生用宿舍は経済状態を配慮し、主に1年生を優先している。また、6月からはお台場の留学生向け宿舍（東京国際交流館）も活用している。	学生寮はなし。アパートの借上も交換留学生を対象とするのみ。	留学生寮あり。定員は学生70名、研究者10名。但し寮は国費の学生で埋まっている。	学生寮は一般学生と同一。留学生優先なし。 国際交流会館という学会等のゲストハウスとして使う宿舍に院生のみ20名入居。
4	海外現地窓口機関は持っているか。海外での募集媒体は。	なし。	AIEJの日本留学フェア（年間5～6都市）は毎年参加している。新試験に対応した海外募集は今後検討。	アドミッションズオフィスはないが、大学間交流協定校を通し情報を流している。海外の大学から協定を結びたい旨の希望は多い。	なし。大使館を通じての情報があがる程度。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立5	私立6	国立4	国立5
I 受入体制：施設・組織					
1	受入可能留学生数：在学数、卒業数、中途退学数。	在籍：37（学部：16 博士前期：14 博士後期：7） 主たる出身国：（中国：19 韓国：7 台湾：3 マレーシア：7 ベトナム：1 内、マレーシア高等教育基金事業による編入学者：4） ・学生数は減少傾向 ・中途退学過去5年間で平成10年に1名のみ。学業、精神面の理由	在籍：276（学部195、院81） 卒業：毎年約50名 中途退学：10名前前後 ・中途退学者はアジア通貨危機で増加。	在籍：340（うち学部約10名で残りが大学院生） 主たる出身国：（中国・タイ・韓国の順） 国私別：（国費：100、私費：140 うち政府派遣者が10名程度） ・中途退学は数名/年程度	1123名在籍（5/1現在）
2	留学生センター等の専門窓口は持っているか、その規模、職員数。	学生課内に担当1名 理工学部学生課（他キャンパス）に1名 （但し留学生の専属ではない）	留学生受入れ、日本人学生の海外留学を扱っている。 所長を含め教員3人、スタッフ6人	教官が組織する「留学生センター」に10名プラス非常勤数名、大学事務局内の「留学生課」に職員7名。日本語教育や各種相談は前者、受入れ手続き等は後者が担当	国費留学生受入れを扱っている。私費留学生は各学部が管理。
3	留学生寮はあるか、その規模、入寮条件は。	寮：なし 民営アパートの一括借上げ。家賃が5万円程度と安くなく、留学生の利用は少ない。留学生入居者は現在無し	学生運動の関係で寮は閉鎖。現在国際交流センターとして一般、留学生混在型の寮の建設を目指して学校側に働きかけている。	留学生用寮あり。収容人員80名。私費留学生を優先。入寮期間は最長1年まで。	3つあり。留学生の12%が入寮している。
4	海外現地窓口機関は持っているか。海外での募集媒体は。	無し。今後海外の協定校を通し始める予定。	AIEJの日本留学フェア。渡日前の募集も寮がない事がネックとなっている。	なし。	無し

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立7	私立8	私立9	国立6
I 受入体制：施設・組織					
1	受入可能留学生数：在学数、卒業数、中途退学数。	在籍：416（学部319、大学院97） 主たる出身国：（中国：186、韓国：68、台湾：33） 卒業：毎年約100名 中途退学：20名前後 9割は経済的理由。国籍は中国、韓国	在籍：290（大学院：103、学部：134、別科：53） 主たる出身国：（中国：131、韓国：53、台湾：7） ・留学整数は、微増傾向である。 ・中途退学は、1～2名/年、精神的理由による学費未納のため。	在籍：354（大学院：23、学部：302、別科：29） ・除籍は1～10名でその理由は、学費未納。学習意欲減退により学費滞納に至り、未納となったもの。	在籍：1086 卒業：200名程度 中途退学：50名程度
2	留学生センター等の専門窓口は持っているか、その規模、職員数。	留学生受入れ、日本人学生の海外留学を扱っている。職員専属3人、契約3人、アルバイト2人	国際センター国際課に、専任職員：5名、嘱託職員：2名、アルバイト等5名	留学生センター：専任職員4名、派遣・契約職員2名	センターあり。職員数5名。教官14名
3	留学生寮はあるか、その規模、入寮条件は。	学生運動の関係で寮は閉鎖。	留学生用は、約50室。家賃：22,000円/月、保証金：3ヶ月など。条件は、寮により少し異なる。	寮：なし 民営アパートの一括借上げもなし。	あり。171人収容可能。但し半年毎に交代を必要とされ、新規入学者は基本的に全て受け入れる
4	海外現地窓口機関は持っているか。海外での募集媒体は。	韓国、インドネシアに現地事務所あり。	現地機関はないが、マレーシア、台湾、韓国に協定校あり。現地の留学生新聞、AIEJの留学生フェアを利用。	途上国では、タイおよび中国の大学と交流を持っている。	海外における提携校があり、交換留学生の窓口となる。学部単位での提携校もあり、正確な数は即答不可。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立10	私立11	国立7
I 受入体制：施設・組織				
1	受入可能留学生数：在学数、卒業数、中途退学数。	在籍：292 卒業：毎年学部50名、院10名程度 中途退学：毎年3～4名程度	在籍：300 卒業：毎年学部60名程度 中途退学：毎年2～3名程度	在籍：875（学部85、修士197、博士354、研究生118） 主たる出身国（中国：392、韓国：165、インドネシア：47） 卒業：毎年約200名 中途退学：5 - 10名 ・学部単位で扱っているので詳しいことは不明。理由は、名間関係、勉強についていけない、授業料未納による除籍等。
2	留学生センター等の専門窓口は持っているか、その規模、職員数。	豊橋4人 派遣1人 アルバイト1人 名古屋3人 嘱託1人 アルバイト1人	専任11人 嘱託（アルバイト）8人 カウンセラー一人 専任11人の中に中国人1人 フィリピン一人がおり、母国語でカウンセリングしている。	留学生課（職員数：11名）。ただし、国費留学生のみ対象としている。私費留学生については、各学部が扱っており、専門窓口は有していない。
3	留学生寮はあるか、その規模、入寮条件は。	なし。但し民間の住居を借上げ留学生を入れている。キャンパシティは30人弱。交換留学生を優先的に入れている（約10名）。	156人収容できる分の寮を持っている。更に拡充する予定。日本人は2年 外国人は4年入居できる。当校の特色として、住居の確保に力を入れている。当該寮は日本人も住むことが可能であるが、日本人一人と交換留学生1人（英語圏）を含めた4人で共同で生活を行う形式の寮にしており、日本人がそのグループのカウンセリングを実施する役割を担っている。	松原寮：300人収容 貝塚寮：78人収容 田島寮：240人収容 他に学生会館、研究員宿泊施設あり。 留学生専用としては、留学生会館（200室）、インターナショナルゼネズ70室あり。
4	海外現地窓口機関は持っているか。海外での募集媒体は。	協定校が10～ある。	協定校が45ある。主にアメリカが多い。	なし。博士課程は、教授同士の紹介により他の大学からの入学あり。

大学へのインタビュー

対象教育機関		国立1	私立1	国立2	私立2
II 受入体制：制度					
5	入学試験、入学審査方法	特別選考1次①日本語能力試験1級②私費外国人留学生統一試験 2次：①小論文（日本語・外国語（母国語）2種）②面接	（経済学部の場合） 学部：日本語試験、論文試験及び面接。 博士：日本語試験、論文試験及び口述試験	＜学部＞ 出願書類：入学志願書、写真票、成績証明書、卒業証明書、外国人登録済証明書、健康診断書、入学検定料 選抜方法：私費外国人留学生統一試験、日本語能力試験及び本学が行う試験 学力検査：数学、物理学、化学、英語、日本語・・・2月上旬 口頭試問・面接：2月中旬、合格発表：3月上旬 ＜修士、博士課程＞ 口述試験・筆記試験、口頭試問、調査書、推薦状による。	学科ごとに枠を設け、その範囲内で選考を行っている。選考方法の詳細については担当者が異なるため不明とのことであるが、日本語試験を独自に行い、その結果に基づき選考しているとのことである。
6	奨学金制度・授業料減免制度・医療費補助はあるか。どのような内容か。	学習奨励費：192名（院生のみ） 民間財団による奨学金（60種程度）262名（学部16、院246名） ※平成12年度 平成12年度後期授業料免除者数：548/1,177名 私費留学生に対する免除率47% 医療費補助制度の手続きを行っている。	文部科学省学習奨励費の他、各種財団の奨学金制度多数。ただし、該当者は、数名程度。 授業料減免（30%減免）は、76%の学生が受けている。 医療費について：留学生は、来日後、すぐに国民健康保険（30%自己負担）に加入する必要がある。また、日本国際教育協会には医療費補助の制度（自己負担の80%）があり、国民健康保険の補助を含めると治療費全体の6%で医療を受けることができる。	国際大学院コースへ入学する者：文部科学省の奨学金 学部4年、大学院在籍者：文部科学省の奨学金 地方公共団体、民間団体等による奨学金：既に日本に在住している私費の留学生を対象として、支給している。本学に募集の通知のある奨学金制度は、約60件。 医療費について：留学生は、来日後、すぐに国民健康保険（30%自己負担）に加入する必要がある。また、日本国際教育協会には医療費補助の制度（自己負担の80%）があり、国民健康保険の補助を含めると治療費全体の6%で医療を受けることができる。	文部科学省からの学習奨励金や授業料減免のほか各財団法人および大学独自の奨学金制度を設けている。これらの恩恵を受けている学生は総学生数1万人に対し413人であり、うち大学独自の奨学金等の受益者は40人程度である。しかし、これらはすべて給付であり、貸付は現在行っていない。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立3	私立4	国立3	公立1
II 受入体制：制度					
5	入学試験、入学審査方法	資料参照。学部により要項は異なる。	各学部独自に作成した留学生用の筆記試験と面接。学部によっては応募の段階で日本語能力試験・統一試験が必要。商学部で2年前から能力試験・統一試験のみで受験できる方式を採用したところ、受験者がかかなり増えた。この実績を基に渡日前入試も検討して行く。	学部：日本語能力試験と独自の筆記試験。 大学院：コース別に個別の審査方法をとっている。	学部1次①日本語能力試験1級②私費外国人留学生統一試験 2次：一般学生と同様の筆記試験（ほとんど1次試験で決まる） 大学院は学部独自に留学生向けに準備した筆記試験、面接
6	奨学金制度・授業料減免制度・医療費補助はあるか。どのような内容か。	70～80種類の冠奨学金の他、同大学独自の奨学金により学部1年生の成績優秀者を対象に入学金以外の諸費用を免除している。また、授業料免除は日本人学生と同様に行っている。医療費補助はAIEJの他、学生健保制度を有している。	大学独自のものは、①入学時給付：学部入学時に年間授業料の50%を給付（100%）②学部（2年以上）大学院給付：1年間の授業料の50%を給付。院生優先。（57%）③給付：援助が途絶える等経済事情に急激な変化があった者が対象。授業料全額。（2～3名）④国際交流奨励金：文化交流で活躍した者への表彰金。AIEJの医療費補助制度：手続きは大学で行っている。 応急貸付：学費の納入が出来なくなった学生を救済する制度。これまで学生が直接厚生課に申請していたが、今年からセンターを通し、センターで学生の面接、返済計画作成等全で行う。これまで留学生の貸し倒れは0。これにはかなり綿密な個別面接・指導（1人1～2時間）を行っているからであろう。今年の利用者は10名。AIEJの減免制度あり。年々交付金が減り、大学の持ち出しが増えていた。昨年の減免実施額58百万に対し、交付金53百万。	学習奨励費：70名（院40名、学部30名） 民間財団による奨学金（20種程度）20名～30名がもらっている。奨学金を何ももらえない私費留学生が7割近く。 授業料減免対象はこれまで学生総数の授業料収入の8%くの補助が出ていたが現在は6.5%に落ちてきている。かつて減免対象者は日本人学生・留学生のパーセンテージを決め、文科省で承認を得て決めたが、今は日本人学生・留学生併せて選定しているので、どうしても経済状況の悪い留学生が優先になっている。日本人学生の財政状況も悪化しており、留学生のみにまわす事に批判が強まっている。	大学独自のものは、A:授業料全額給付（50名）、B:半額給付（50名）。他に学習奨励金あり。AIEJの医療費補助制度：手続きは大学で行っている。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立5	私立6	国立4	国立5
II 受入体制：制度					
5	入学試験、入学審査方法	外国人特別入試：①日本語能力試験1級スコア②私費外国人留学生統一試験のうち必要科目③面接 入学して来る学生の学力は低下傾向。留学生数が増えた事が要因か。面接は学業への意欲を重視。経済的な要因は考慮に入れず。	各学部独自に作成した留学生用の筆記試験（英語・専門・小論文）。学部によっては日本語能力試験・統一試験を利用。	4月入学の他、10月入学も数名あり。各学部により筆記（専門・語学）・面接・口頭試問など	学部：特別入試と一般入試 工・薬・経・農は日本語能力試験、統一試験を併用した特別選抜あり。
6	奨学金制度・授業料減免制度・医療費補助はあるか。どのような内容か。	東京電機大学特有のものは院生対象の給付。修士課程在籍者：授業料の24.5%（17万円）博士課程在籍者：授業料の12.75%（9万円円）。取得単位が極端に少ないような場合を除き、全員に給付。AIEJの授業料減免制度：単位が極端に少ない学生、留年した学生を除きほぼ全員が対象。授業料の減額分30%の援助金の交付を受けている。AIEJの医療費補助制度：手続きは大学で行っている。AIEJから留学生への就学状況の確認はなし。受給に本人のサインが必要とされるのみ。	学習奨励費：70名 明治大学独自の奨学金は、奨学金の対象から外れてしまう学生（35歳以上等）を優先的に給付している。月5万を10ヵ月間。院生はほぼ100%受けている。	学習奨励金（約40名）、冠奨学金（約40名）。授業料減免は日本人学生と同様の基準で行っており、約80%の学生が認められている。AIEJの医療費補助制度あり。	学習奨励費：144名（院115名、学部29名） 民間財団による奨学金 奨学金をもらっていない学生は全体の4割程度。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立7	私立8	私立9	国立6
II 受入体制：制度					
5	入学試験、入学審査方法	前期入試：文系：日本語・英語筆記、面接 理工：日本語・英語・数学筆記 後期入試：1次統一・1級、2次面接 2種類の入試がある。渡日前入試採用後は面接を課さない予定。	筆記試験と面接試験。銀行残高証明書、親の年収、納税証明書、親族公証書等により在留資格を認定。	試験科目に日本語あり。その他、学部により科目を設定。留学生には、加えて面接試験あり。	基本的には試験のみ
6	奨学金制度・授業料減免制度・医療費補助はあるか。どのような内容か。	学習奨励費：90名（院14名、学部76名） 独自の奨学金として授業料の半額免除。 授業料の減免制度は申請ベースで申請者の80%。今年からは大学の持ち出しをしない方針。文科省の奨学金は選考が大変。一律にして欲しい。	同志社大学特有のものは、A:授業料全額給付（4名）、B:半額給付（8名）。他にAIEJの授業料減免等あり。	近畿大学特有のものは、1号給付：入学金相当額を支給（大学院2名、学部16名）、2号給付：年額80万円を支給（大学院6名、学部10名）。選考の基準は、学部長の推薦と成績。	一般の大学に存在する学習奨励費、授業料減免措置等の制度がある。また名古屋大学には留学生後援会があり、学校の職員等がそのメンバーとなっている。この後援会において（財）内外学生センターの住宅総合保険に加入していることを前提として留学生が住居を確保するときの保証人を確保している。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立10	私立11	国立7
II 受入体制：制度				
5	入学試験、入学審査方法	基本的には試験のみ。但し海外協定校からの推薦で来る生徒もある。	入試が原則（日本語・英語・中国語＋数学）→全学部 推薦の場合推薦協定校からの推薦に基づき毎年35名程度受け入れを行っている→総合政策学部のみ また総合政策学部は書類選考のみの入試を実施しており、特に特技・才能のある人物については受け入れを行っている。	各学部独自に作成した留学生用の特別試験を実施している。筆記試験＋面接試験。応募の段階で日本語能力試験・統一試験が必要。
6	奨学金制度・授業料減免制度・医療費補助はあるか。どのような内容か。	学習奨励費45人 授業料減免160～170人 医療補助全員	学習奨励費20名程度 授業料減免全学生 医療費補助 全学生 このほか学校独自の奨学金制度があり書類選考と面接によって支給している。	留学生のためのものは設けていない。 文部科学省の奨学金：142,500/月（学部生）、185,500円/月（研究生）該当者は若干名。 日本国際教育協会の学習奨励費 ロータリー米山奨学金等、該当者少数。

大学へのインタビュー

対象教育機関		国立1	私立1	国立2	私立2
7	TA（ティーチングアシスタント） ／RA（リサーチアシスタント）制度はあるか。利用状況はどうか。	あり。 TA日本人を含め2,597名 時給は修士@1,000円 博士@1,200円 RA日本人を含め336人 ※留学生の内訳数なし	無し	T/A：@1,100/90分（修士）、 @1,200/90分（博士） R/A：不明。各部局が担当している。	いずれも制度自体はあるが留学生に対しとくに枠を設けているわけではないので、留学生が担当することは稀である。
III 受入体制：生活支援					
8	住居の斡旋は行っているか。利用状況は。	学内の厚生課、生協で物件紹介 AIEJ、内外学生センターを紹介	紹介をしている。 物件数が少なく、不十分。 内外学生センター、OB、友人、民間の不動産業者により探しているのが実態。	厚生課にて行っている。 留学生住居総合保険に加入させている。この場合、機関保証をしている。	生活課が中心となり紹介をおこなっている。ソースは留学生支援企業協力推進協会および内外学生センター等である。
9	ホームステイ先の紹介は行っているか。利用状況は。	—	無し	無し	無し
10	アルバイトの斡旋は行っているか。斡旋先、利用状況は。	資格外活動取得件数は平成11年度実績で619名 学生部厚生課で全学生向けに紹介を行っている。	一般学生と同じ。学生課にて掲示している。 学校側では、院生に対して、試験監督をさせている。@1,000～1,200円/90分	無し	生活課が中心となり紹介をおこなっている。しかし、大学紹介では留学生がバイトに就くケースは稀である。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立3	私立4	国立3	公立1
7	TA（ティーチングアシスタント） ／RA（リサーチアシスタント）制度はあるか。利用状況はどうか。	各事務室がそれぞれ行っており、留学生も利用している。理工学部が多い。	大学院生はあり。但し日本人と同一条件。時給・利用者数：NAV	あり。時給は1,000円程度。学内アルバイトも、生協などリストラをしているところで、留学生の雇用は難しい。	大学院生はあり。但し日本人と同一条件。時給・利用者数：NAV
III 受入体制：生活支援					
8	住居の斡旋は行っているか。利用状況は。	内外学生センターや同大学共済部のアパート紹介を行っている。	民間アパートの斡旋は大学の生協不動産部が一般学生と同様に行っている。センターでも留学生不可の家主を説得すよう、不動産部にかけあっている。センターで独自に留学生に紹介しているのは留学生支援企業協力推進協会の社員寮入寮プログラム。	社員寮入寮プログラム、内外学生センターを紹介。キャンパスが移転し、学生が各自5～7万の賃貸住宅を自分で探している。身元保証人制度は緩和されつつある中で、住宅の賃貸借契約の連帯保証人は今だにネック。大学入学時の身元保証人について外大はおととしから撤廃している。	民間アパートの斡旋は、留学生の入居の可否を明記するのみで、一般学生と同一のものを利用。
9	ホームステイ先の紹介は行っているか。利用状況は。	希望者については紹介している。但し学生が自分でホームステイ先をみつけているケースも数名あると思われる。	なし。交換留学生のみ。	無し	無し
10	アルバイトの斡旋は行っているか。斡旋先、利用状況は。	内外学生センター及びその他のアルバイトの掲示を行っている。	一般学生と同一のもの。語学講師、翻訳等留学生を対象とした求人票はセンターに来るのでセンターで掲示。留学生からは学内でアルバイトをさせて欲しいという要望が強く、生協に働きかけている。	外語大でも語学講師、通訳などの時給の高い（2千～3千円）のアルバイトの求人はなかなか来ない。	一般学生と同一のもの。特に留学生を対象とした求人票は留学生掲示板に掲載するが、ほとんどそういった求人はない。留学生の多くは飲食店や清掃などのアルバイトに従事している模様。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立5	私立6	国立4	国立5
7	TA（ティーチングアシスタント）／RA（リサーチアシスタント）制度はあるか。利用状況はどうか。	大学院生はあり。但し日本人と同一条件。週1時間（月4時間）で1コマ当たりの月給：修士4万、博士4万5千。21人中8名が利用。	なし。検討中。	日本人と同一条件であり。	無し
III 受入体制：生活支援					
8	住居の斡旋は行っているか。利用状況は。	無し。内外学生センターに委託。学生には内外の連絡先を教えるのみ。留学生支援企業協力推進協会の社員寮入寮プログラムも利用している。	一般学生と同様の紹介を学生部で行っている。学生の保証人は大きな問題であるが、今のところは学校で対応出来ていない。内外の住宅保証保険に入っている学生に対しては保証人となる事を目下検討中。	（財）内外学生センターからの情報について仲介しているのみ。	内外学生センターを紹介している。今春より内外の住宅保険に入っている学生には京都地域の大学がコンソーシアムを作り機関保証をしている。
9	ホームステイ先の紹介は行っているか。利用状況は。	短期留学生にのみ紹介している。	交換留学生のみ。	短期留学生(20数名)について適用。	無し
10	アルバイトの斡旋は行っているか。斡旋先、利用状況は。	留学生に向けての紹介はなし。就職課の求人も一般学生と同一。	一般学生と同様の紹介を学生部で行っている。	無し	翻訳などの求人がくれば掲示する程度。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立7	私立8	私立9	国立6
7	TA（ティーチングアシスタント）／RA（リサーチアシスタント）制度はあるか。利用状況はどうか。	一般学生と同様。	大学院生について、2,000/90分。	無し	存在する。実際には各学部単位で制度の利用が必要と認めた生徒に対して制度の利用を促したりしており、学生から利用を求めるといふより、学校側から制度の利用を促すようにしている。留学生が先輩の留学生をアシストしたり、日本人学生をアシストしたりするケースもある。留学生がアシストするケースは「資格外活動認定」が必要となる。これら「資格外活動認定」が学生の代わりに入国管理局へ行き手続きを代行している。但しビザの更新については本人任せ。
III 受入体制：生活支援					
8	住居の斡旋は行っているか。利用状況は。	内外学生センターを紹介している。他は一般学生と同様の紹介を生協で行っている。今春より内外の住宅保険に入っている学生には京都地域の大学がコンシェルジュを作り機関保証をしている。	留学生向けに安い物件の紹介を厚生課が行っている。件数が少ないので、利用件数は少ない。内外学生センターに頼るところ多し。社員寮の開拓を行っているが難しい。	学生部で実施している。	実質行っていない。生協の住宅相談室や(財)内外学生センターを紹介している。
9	ホームステイ先の紹介は行っているか。利用状況は。	無し	私費留学生には、制度としてはない。ただし、交換留学生は、原則ホームステイ。	無し	短期のホームステイの紹介は行うが、長期のものは市や県のボランティア団体が実施するものに任せている。
10	アルバイトの斡旋は行っているか。斡旋先、利用状況は。	学内のアルバイト求人のみ。ダブル回避の為、一般学生にもアルバイトの紹介は行わない。	厚生課が行っているが、件数が少なく利用も少ない。内外学生センターに負うところが大きい。	無し	(財)内外学生センターを紹介。あるいは、個別に英語の家庭教師が必要等のニーズがあったときは、掲示板でその旨を広告するが、随時あるものではない。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立10	私立11	国立7
7	TA（ティーチングアシスタント）／RA（リサーチアシスタント）制度はあるか。利用状況はどうか。	留学生に限定したものはない。	制度的にはないが、原則として授業に遅れた人物をそのまま放置するわけには行かないため、担当教官が面倒を見ている。	あるが詳細不明。 ただし、国公立大は統一の規定があるはず。この点、後日確認の上、記入。
III 受入体制：生活支援				
8	住居の斡旋は行っているか。利用状況は。	生協で実施している斡旋のみ	企業から寮の提供を行ってもらっている（トヨタ、東海銀行、コジマプレス等）。現在必要でない独身寮について留学生支援企業協力推進協会を通じて住居を斡旋してもらっている。	特に留学生向けには行っていない。他の学生と同様に、近くの不動産屋を紹介している程度。 福岡地域留学生住宅保証制度：日本でアパート等に入居するためには、連帯保証人が必要。この制度に賛同する協力業者（不動産業者等）が斡旋するものは福岡国際交流協会が連帯保証人になる。
9	ホームステイ先の紹介は行っているか。利用状況は。	無し	200件程度のホームステイ予定先を確保しており、そのうち年間60～70件程度に1年間を目処に入居させている。	ホスト・ファミリーの募集をしているが少ないので機能していない。特に、英語圏以外の学生の受入希望は極めて少ない。
10	アルバイトの斡旋は行っているか。斡旋先、利用状況は。	学生課で実施している。但し日本人・外国人の分け隔ては基本的にはないが、アルバイト提供先に対して、外国人留学生でも良いかどうかの確認だけは行っている。	企業からの依頼をもとに提携フォームにファイリングし、学生からアルバイト先の紹介を求められた場合に、当該ファイルを見せ紹介している。この場合資格外活動許可証が必要となるため、この手続きは大学側が行っている。	無し

大学へのインタビュー

対象教育機関		国立1	私立1	国立2	私立2
11	カウンセリングサービスを行っているか。利用状況は。	あり。 平成11年度実績 修学に関する相談867件。（7割進学、転学部、日本語学習に関する相談） 生活に関する相談1,255件。（4割留学生交流に関する相談）	学生課で常時対応している。	学生相談室、留学生センター生活指導室にて行っている。	学生（全般）に対し専属のカウンセラーが14～15人程度いる。
12	学習・研究補助（チューター制度等）の制度があるか。	平成12年度実績593人	無し。理工系学生には、場合によって。ただし、詳細不明。	研究室の教授の推薦により、チューターを指定。	留学生を対象としたものは特にない。
13	就職指導は行っているか。学生の希望進路は。国内企業への就職状況は。	—	進路：就職30%、進学30%、帰国その他40% 就職指導課にて、指導を行っているが、ほとんど本人が独自で活動している。	研究室の教授の推薦等による場合が多く、実質的には機能していない。	就職先の紹介は行っているが、留学生に限って言えば就職できるのは1割程度である。理由としては企業側の外国人に対する偏見が強いことが上げられる。シャープは現地の幹部候補生として日本で採用しているが、稀なケースである。
IV 貸与奨学金について					
14	貸与奨学金制度が導入された際、学生に対し積極的に利用を促すことは可能か。	・この制度には全面的に協力し兼ねる。今のスキームでは大学の関与は一切出来ない。 ・大学は個人の金銭消費貸借の間に入る事は出来ない。	制度の問題として、貸与はどうかと思う。給付にしたほうがいい。 貸したがためのその返済苦悩または返済不能時の悪影響を勘案すると、制度自体心配である。	需要はあると思うが、本学に在学の学生は、基本的に他の奨学金等を受けていたりで経済的に困っている人は少ない。したがって、貸与奨学金制度を導入しても本学について、留学生増加の効果は、見込めないと考えられる。	利用を促すまでもなく学生間に素早く広まるであろう。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立3	私立4	国立3	公立1
11	カウンセリングサービスを行っているか。利用状況は。	カウンセリング専門の教官が1名いる。国際センターにも1名がカウンセリング担当として従事している。	一般学生と同一のもの。留学生の利用者は、2名精神衛生のカウンセリング、2～3名はその他のよろず相談的なカウンセリングを受けている。4月から新たに異文化間カウンセリングを法学部の外国人教授にお願いしているが、利用者なし。センターで対応できないケースはカウンセリングにまわすようにしている。	非常勤のカウンセラーが週1日4時間対応。年間20名前後の利用あり。精神的な相談が多い。院生の場合、指導教官との反りが合わないといった悩みも多く聞かれる。	週2回8時間カウンセリング窓口を開けている。内容は住宅、ビザ、手続きから多岐にわたる。
12	学習・研究補助（チューター制度等）の制度があるか。	ある。国費留学生については補助金からの予算、私費留学生については同大学の予算で賄っている。	97年に作った制度。利用者は現在まで毎年1名から6名程度で推移している。	日本人学生の3年生以上が指導にあたっている。	有り。1年次のみ。チューターは同じ研究室の先輩で、日本人、留学生を問わず。
13	就職指導は行っているか。学生の希望進路は。国内企業への就職状況は。	進路指導等は就職課が主に担当。日本で就職するケースも多い。博士課程の院生の場合は母国で休職して留学する場合もあり、帰国するケースが多い。一般的に近年は就職難であるが、卒業生の優良企業への就職も多くある。	就職部と共催で留学生就職ガイダンスを行っている。就職部にも留学生担当がいる。リクルートの留学生就職フェアの案内も行っている。 3月卒業生84名の進路内訳：国内就職13；国内進学29；帰国6；海外進学2；不明34	就職指導が出来ていない。国公立はここ数年の就職率の低下によりやっと重い腰を上げた。文系大学なのでどうしても就職状況は思わしくない。語学を生かした商社、マスコミが比較的強い。	就職部が、日本人学生と一緒にに行っている。進学、帰国、日本で就職の率はNAV。但し同行の特徴として、進学をする学生が非常に多い。日本での就職は分かる範囲で今年4～5名。就職希望者は多い。
IV 貸与奨学金について					
14	貸与奨学金制度が導入された際、学生に対し積極的に利用を促すことは可能か。	利用の掲示などについては可能と思う。数年前留学生宿舍建設のための融資の話がJ B I Cからあったがそのまま立ち消えになってしまったこともあり、今回の貸与奨学金の制度導入の様子をみたい。	積極的に利用を促すことは出来る。内外の貸付金制度と同様に留学生の為のガイドブック等でアナウンスをすることも可能。	在学中の需要はある。特に奨学金をあてにしていた学生が選考にもれてしまい、慌てふためくケースもしばしば。内外の貸付金はあくまでも緊急を要す学生が対象で、授業料の納付は緊急と認められない。又、表向きはないが、学校毎の枠も設けられている。内外の貸付は過去1名を除き返済している。返済はアルバイト代から充ててている様子。	可能。内外の貸付金を希望する学生などには紹介できる。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立5	私立6	国立4	国立5
11	カウンセリングサービスを行っているか。利用状況は。	一般学生と同一。留学生が個別に抱える悩みは、学生課の留学生担当を頼る事が多い。	留学生へは生活アドバイザーという契約のカウンセラーがいる。3キャンパスを巡回。改まったかたちのカウンセリングの他に、キャンパスを歩き回って学生とコミュニケーションを図っている。	「留学生センター」で対応している	あり。一般的な相談、精神面でのサポート。 精神的にバランスを崩す学生が毎年何人かはいる。
12	学習・研究補助（チューター制度等）の制度があるか。	無し	現在は国費の院生のみ。アンケートを通して他の学生にも需要があるか調査しているところ。	なし。	あり。新入生はほとんど利用。
13	就職指導は行っているか。学生の希望進路は。国内企業への就職状況は。	一般学生と同一。学校に来る求人票に留学生の可否を書いている。就職状況は今春卒業11名うち、6名：国内就職、4名：帰国（マレーシア高等教育基金事業による留学生2名＋中国人1名）、1名：研究員	就職課に留学生担当が2～3人いるがあまり利用はしていない様子。理系は研究室単位なので就職の状況も良いが、文系の学生には就職課を活用するよう促している。平成12年度実績：57名卒業 国内就職：10名、国内進学13名、帰国就職7名、他国就職・進学1名、不明26名	学生課において他の学生と同様の扱いで進路状況を把握している	そもそも学生に対する就職指導に力を入れていない。今後の課題の一つではある。今春卒業生の進路：国内就職55名、国内進学49名、帰国就職進学69名、海外就職進学11名。
IV 貸与奨学金について					
14	貸与奨学金制度が導入された際、学生に対し積極的に利用を促すことは可能か。	現に、学部から院へ進学する学生が奨学金の受取りが間に合わず、一時的に大学院の入学金を支払えない様なケースもあり、又授業料が一時的に払えなくなる学生に対し、学校が一時的に貸付ける事はある。このような場合に学生に利用させたい。	掲示等でアナウンスをする事は可。	広報などの手段を通じて紹介することは可能だと思う	募集、推薦は可能。しかしこの制度はそもそも悪用される事を回避出来る仕組みになっていないと思われる。本校としては否定的な見方をせざるを得ない。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立7	私立8	私立9	国立6
11	カウンセリングサービスを行っているか。利用状況は。	一般学生と同様。 留学生は相談事をまず国際課にもちかける。事故、病気、法律関係のトラブルなどの相談は受けている。	学生課相談係が対応しているが、留学生は、国際センターに来る。	学生からの申入れにより行っている。週に1件ぐらい。	年間1900件程度の問い合わせがある。カウンセリング内容としては住居問題、日本文化になじめない等の問題が多い。センターが実施するカウンセリングの他、学部単位で専門教官（学部毎にカウンセリングを専門とする教官がいる）や指導教官がカウンセリングを行っている。
12	学習・研究補助（チューター制度等）の制度があるか。	主に異文化交流を目的とした日本人チューターが100名、最近日本語のライティングチューター制度も導入。	無し	無し	7参照
13	就職指導は行っているか。学生の希望進路は。国内企業への就職状況は。	キャンパス毎のキャリアセンター（就職課）に留学生担当が1人いる。留学生向けの就職フェアも行っている。 今春の就職状況は、国内就職が10～20名。就職指導も課題の一つ。	就職部が、日本人学生と一緒にしている。進学：50%、帰国：40%、日本で就職：10%。	就職部で、他の一般学生と一緒にしている。	留学生のため独自のものは実施していない。日本人学生に対して行っているものの中に潜り込ませている。国内企業への就職は最近増加傾向にあり、ほぼ半数の生徒が日本国内での就職を希望している。特に理経の生徒が多い。また第3国（アメリカ等）への再留学を希望するものもいる。
IV 貸与奨学金について					
14	貸与奨学金制度が導入された際、学生に対し積極的に利用を促すことは可能か。	可能。渡日前の給付はリスクが高い。大学には諸事情で学費の負担が途中で出来なくなる学生も居るので、学費の一部を貸付け、上限額も15万円程度に設定してはどうだろう。	給付があたりまえなので、果たして返してくれるか疑問である。1人返さないと皆が返済しないこともある。	貸与奨学金であってもないよりあったほうがよいということはわかるが、返済不能にいった場合のことを考えると、あまり積極的には進められない。	ポスター・パンフレットの配布が可能。もし説明会を実施するのであれば、説明会への参加も検討する。説明会としては、各県の留学生交流支援推進会を用いるのが便利と考えられる。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立10	私立11	国立7
11	カウンセリングサービスを行っているか。利用状況は。	国際交流課において実施している。また留学生別課では担当の先生が比較的良好に面倒をみており、ゼミの担当教官もカウンセリングを実施している。但しこれは先生にもよる。	2 参照	留学生センターまたは学部で対応。人間関係、履修、生活面の相談。
12	学習・研究補助（チューター制度等）の制度があるか。	7 参照	7 参照	1年次に学部で推薦し対応。
13	就職指導は行っているか。学生の希望進路は。国内企業への就職状況は。	就職課において実施している。但しこれも日本人・外国人分け隔てなく実施している。	基本的には特に留学生だけを対象としてもは行っていない。現在日本企業への主食希望は増加している。特に当校の場合日本語・中国語に加えて、英語も必須であるため、企業としても需要が多い。	留学生は、ほとんど帰国するか進学するかで日本で就職する学生は少ない。したがって、留学生向けに日本での就職について特別な指導はしていない。また、院生は指導教授が実質的に指導している。帰国：90%、進学（7Mカなどで）：5%、その他：5%
IV 貸与奨学金について				
14	貸与奨学金制度が導入された際、学生に対し積極的に利用を促すことは可能か。	勿論可能。但し新しく制度を実施する以上、学校側にも説明が必要である。二本育英会は年に2回程度、学校向けに説明会を実施しているため、同様の説明会が必要である。また学生に対してもなんらかの説明会を実施し、「返す必要のある奨学金」であるという意識を強く持たせる必要がある。	ポスター・パンフレット等の設置で、基本的には協力できない。理由としては、事務料の増加が想定されること及び当校の方針として、学業に専念してもらうために寮の建設や奨学金を貸与しているのに、勉強以外のことに専念することは許していない。貸付制度により、学生に余計な負担がかかる可能性がある。また当校は比較の入試が難しく、また入学後も勉強が大変である。おそらくアルバイトをこれ以上増やすこと自体困難であると考えられる。	返済の滞りが懸念されるため、大学側が積極的に動くことは簡単ではない。借入による修学機会の獲得は、不健全。

大学へのインタビュー

対象教育機関		国立1	私立1	国立2	私立2
15	貴校として、学生の推薦については協力は可能か。	—	協力は可能であるが、結果については責任はもてない。	文部科学省に推薦しているので、それと同じレベルならできなくもない。ただし、それは給付奨学金なので、学校側にリスクがない。貸与奨学金の場合は、選考基準も変わってくると思うし、単純に成績だけでは決められないとすると学校側での推薦は難しい。	推薦はできない。理由としては過去学生貸付の経験がなく、実際にどのくらいの貸倒が生じるか分からない。したがって、貸倒れたときの責任を負えないからである。
16	仮に貸与奨学金に連帯保証が必要となる場合、学生の連帯保証となる事は可能か。過去においてそのような経験はあるか。	—	不可。	不可能	不可能
17	学生に対し、奨学金の貸付を行っているか、行っている場合の業務の範囲（債権管理・回収・事務手続等）又、これから行う予定はあるか。	外国人留学生後援会一時金貸与制度がある。 20万円以内を原則。翌月より1年以内に返済。平成12年4名の申請あり。入学科免除が受けられなかった為に申請があった。審査に個別面接は行わない。指導教官の一筆が必要。直接指導教官に迷惑がかかるので、踏み倒しは殆どゼロ。	教授が特定の2人に対して貸したことはあるが（1人は返済済、1人は督促してはいるが未返済）、基本的にっていない。	無し	行っておらず、行う予定もない。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立3	私立4	国立3	公立1
15	貴校として、学生の推薦については協力は可能か。	同大学から大学院へ進学する留学生については可能性がある。同大学へ進学する学部生については情報が足りないので難しいのではない。但し突然実家の家計状況が悪くなる等のケースもあるので注意が必要。	推薦は可。民間の奨学金も学内選考を行っている。ただしこれら業務はセンターに相当の負担がある為、今回の奨学金でもどの程度大学で学生を絞らせるかを明らかにして欲しい。	推薦は可能。10～20名だったら学校で吟味できる人数。	推薦は可。民間の奨学金も大学毎の枠があり、学内選考を行っている。人物を見ての推薦は、大学の留学生課の場合、限られた人とした接していないので何とも言えない。人物の推薦は研究室の教授が行う方が良い。
16	仮に貸与奨学金に連帯保証が必要となる場合、学生の連帯保証となる事は可能か。過去においてそのような経験はあるか。	本年度より宿舎に関して一定の審査のもと同大学が連帯保証人となる制度を開始した。しかし、内外学生センターによる保険だけでは不十分な場合も有り、同大学の顧問弁護士に相談して個々の契約において特約条項を定めるなどしている。今回の貸与奨学金においても仮に大学が連帯保証人になるとするならば、十分な保険が必要なのではないか。	不可能 唯一連帯保証をしているのは内外の住宅保険に加入した留学生の住宅の賃貸借契約のみ。今のところ滞納家賃の肩代わりをしたことはない。	補償は不可能。	不可能 内外の貸付金申込時に学校に要求されるのは在籍確認のみ。
17	学生に対し、奨学金の貸付を行っているか、行っている場合の業務の範囲（債権管理・回収・事務手続等）又、これから行う予定はあるか。	留学生については行っていない。	前述の応急貸付。事務、債権管理等大学の厚生課で行っている。	無し	同窓会が主体となっているものがある。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立5	私立6	国立4	国立5
15	貴校として、学生の推薦については協力は可能か。	上記のような学生は推薦出来る。学部から修士、修士から博士へ進学するような学生が対象となろう。そういった学生へは保証が出来る可能性もあるかもしれない。	個人的には自分達が見て来た良い学生は推薦してあげたい気持ちは山々だが、学校として可能かどうかは相当議論を経て決める事。こうした大きな決定は旗を振る先生が居ないとなかなか進まない。	学習奨励費の選考も学内で行っており、同様の方法で推薦をすることが出来るのではないかと思う。	推薦は出来ても、推薦した人物に対して責任は負えない。又、貸付けた学生の管理となるとコストもかかるので話は別。国費留学生ですら途中で行方の分からなくなる学生がいるのが現状。在籍確認ですら困難。
16	仮に貸与奨学金に連帯保証が必要となる場合、学生の連帯保証となる事は可能か。過去においてそのような経験はあるか。	同上	不可能	不可能	連帯保証は不可能。この貸付に機関保証のような制度を併設する等の工夫はないのか。
17	学生に対し、奨学金の貸付を行っているか、行っている場合の業務の範囲（債権管理・回収・事務手続等）又、これから行う予定はあるか。	学生対象の学校独自の貸付制度あり。手続きは学生課で行い、債権管理は会計課で行っている。返済は卒業後が要件となっている為、実際留学生の利用はゼロ。	日本人対象の貸付（学費相当分）はあり。	無し	無し

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立7	私立8	私立9	国立6
15	貴校として、学生の推薦については協力は可能か。	学生の在学途中の借入であれば推薦は可能。	成績とは別。返せないものは返せないで、大学では選定は無理。	成績、出席率と返済確度は相関関係が薄いと思う。したがって、学校側から推薦するのは難しい。また、大学側で、本当にニーズがあるのか現段階では不明である。	これ自体は可能。しかし推薦はセンターが実施するのではなく、教官が実施するので、細部については不明。
16	仮に貸与奨学金に連帯保証が必要となる場合、学生の連帯保証となる事は可能か。過去においてそのような経験はあるか。	連帯保証は不可能。	不可能	経験なし。将来についても難しい（不可能）。	実施したことはない。また学校全体に係ることであるため、今後可能か断言は不能。
17	学生に対し、奨学金の貸付を行っているか、行っている場合の業務の範囲（債権管理・回収・事務手続等）又、これから行う予定はあるか。	アジア通貨危機の際に授業料の支払いが滞った学生に40万円程度を貸した。（学士貸与制度）指導教員や国際課が面接をし、詳細の月々返済計画を立てる。それでも貸し倒れたケースが何件かある。	無し	無し	緊急時に5万円の融資(3ヶ月)を実施している。

大学へのインタビュー

対象教育機関		私立10	私立11	国立7
15	貴校として、学生の推薦については協力は可能か。	ほぼ100%返済実行できる人物を選ぶとすれば、5人程度。70～80%返済が可能と考えられる人物でも10人程度と考えている。当該制度には担当者も賛成してくれているが、良い制度であるだけに、返済しなくてもあまり罰則はないという噂が流れ、制度そのものが崩壊することは避ける必要がある。したがって返済が100%行えるであろう人物を厳選する必要がある。	推薦はできない。	優秀な学生は、国費留学、その他であっても無償の奨学金を得ている場合が多く、その上さらに必要とするとはどういうことか。奨学金を得ていない人に対して貸すことになるのなら、その人たちは結局、他の無償奨学金を得られないどちらかといえば成績が芳しくない学生である。推薦の基準を成績とかに置いているのなら、対象者は他の奨学金と重複支給となるので事業効果は少なく、事業の趣旨に合致するのか疑問。
16	仮に貸与奨学金に連帯保証が必要となる場合、学生の連帯保証となる事は可能か。過去においてそのような経験はあるか。	不可能ではないと考えられるが、学校全体の事項であるため、審議が必要。	連帯保証もできない。	不可能
17	学生に対し、奨学金の貸付を行っているか、行っている場合の業務の範囲（債権管理・回収・事務手続等）又、これから行う予定はあるか。	授業料の延納措置。緊急融資20千円程度。大学一年分の授業料相当額の貸付。応急奨学金（返済義務なし）。但し授業料相当の貸付・応急奨学金は制度上は日本人・留学生分け隔てなく実施しているが、運用上は留学生に適用していない。留学生用の入学案内等でもこれらの制度は記載していない。	現在貸付事業は制度的には存在しているが、運用上は実施していない。理由としては、審査を実施したときに経済的に問題のある場合が多く、貸付を積極的に実施できる生徒はいない。	無し